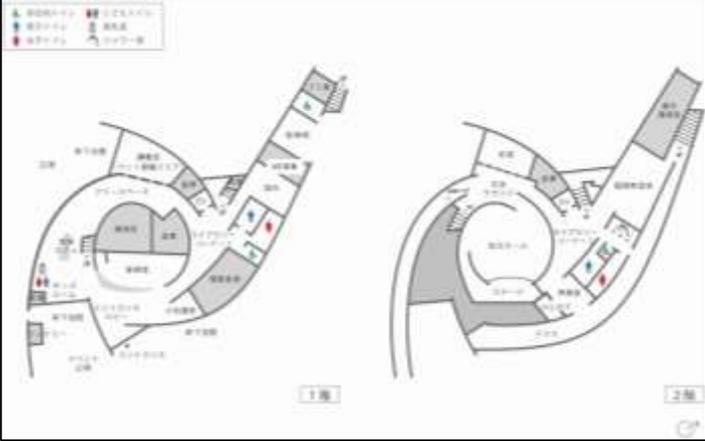


## 4. 参考事例

### 防 災

#### (1) 「行きたくなる避難所」熊野東防災交流センター

所在地	広島県安芸郡熊野町初神三丁目 11 番 13 号		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の避難所としてだけでなく、平時における地域住民の利活用にも配慮した施設</li> <li>地域の防災・コミュニティの拠点として活用</li> </ul>		
主な 取組 内容 等	【施設概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018 年の西日本豪雨による土砂災害で 12 名が犠牲になった熊野町において、「地域防災拠点施設整備構想」を基に当センターを整備</li> <li>地域の防災拠点として備蓄倉庫、シャワー室などを備え、ペット同行避難や乳幼児にも対応可能な施設</li> <li>災害時は最大 500 人が利用できる町の指定緊急避難場所となり、犬や猫など 30 匹が生活できるペット専用部屋に加えて、約 100㎡のドッグランも併設</li> <li>平時には、自主グループ活動やイベント開催など、地域コミュニティの場であるとともに、防災・減災に関する学習などにも利用</li> </ul>	
	工期		2020 年 5 月から 2021 年 5 月
	事業費		6 億 3 千万円（設計費、用地取得費含む）
	構造		鉄筋コンクリート造 地上 2 階
	延床面積		1208.08 平方メートル
駐車場	一般車両 38 台、車いす車両 2 台		
駐輪場	10 台		
	【館内図】		
			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊野町東出張所が当センターへ移転</li> <li>当センター整備に向け、18 年 11 月から住民とのワークショップを計 6 回開催。子どもたちも学校で避難所のあり方について話し合う等、住民の声を踏まえ、公募で 66 社の提案からデザインを選び、昨年 5 月に着工</li> <li>総事業費約 6 億 3 千万円の 4 割が国の交付金</li> <li>町は 2022 年 3 月末までに、同様の避難所をさらに 2 ヶ所整備予定</li> </ul>		
			
	平時は料理教室等に使用できる調理実習室	平時は講義室、災害時はペット避難エリアとして使用するエリア	平時は地域カフェとして使用
	<p>出典：熊野町 HP <a href="https://www.town.kumano.hiroshima.jp/www/contents/1625136065811/index.html">https://www.town.kumano.hiroshima.jp/www/contents/1625136065811/index.html</a>          朝日新聞 HP <a href="https://www.asahi.com/articles/ASP6G6Q79P68PITB018.html">https://www.asahi.com/articles/ASP6G6Q79P68PITB018.html</a>          (2021 年 6 月 15 日 朝日新聞デジタル記事)</p>		

## 4. 参考事例

### (2) 高台まちづくり

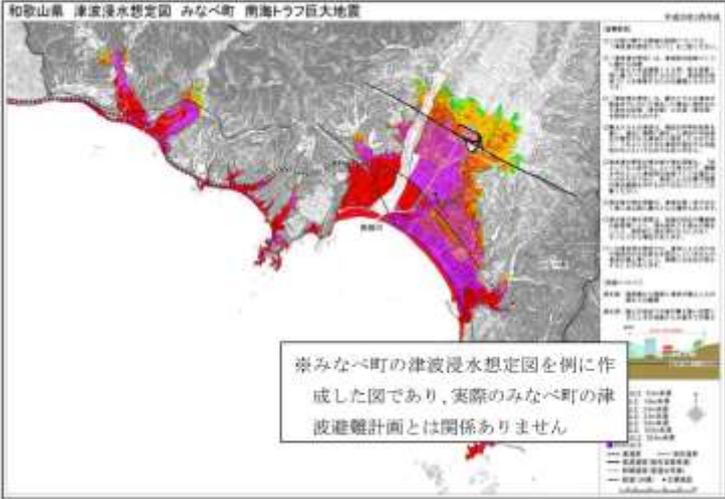
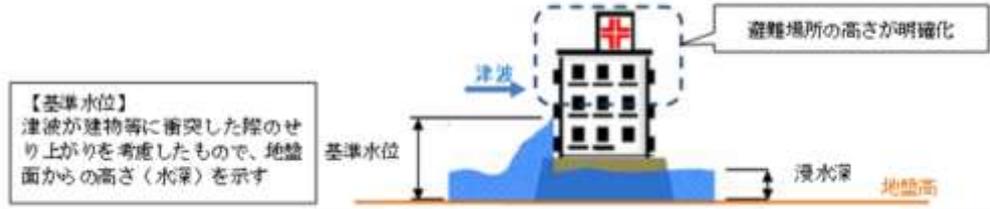
所在地	東京都江戸川区船堀地区
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川区新庁舎建設に合わせた船堀地区における高台まちづくりの検討</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸域の約7割が海拔ゼロメートル地帯である本区において、当地区は荒川左岸が決壊した場合、3~5mの高さで浸水被害が発生し、浸水継続時間も2週間以上となることが想定</li> <li>気候変動の影響による降雨量の増加や海面水位の上昇により、更なる水害が激甚化・頻発化することも今後予想されており、これらへの対応は喫緊の課題</li> <li>ハード・ソフト両面から防災まちづくりを強力に推進するため、令和2年1月に国と東京都が『災害に強い首都「東京」の形成に向けた連絡会議』を設置し、同年12月に『災害に強い首都「東京」形成ビジョン』を公表</li> <li>本ビジョンでは、建築物の上層階に避難スペース等を確保し、それらを想定される浸水深よりも高い位置にあるデッキ等で面的・線的につないだ建物群を創出することで、災害時における命の安全と最低限の避難生活水準を確保する「高台まちづくり」の考え方が示されており、当地区は、「高台まちづくり」を実践するためのモデル地区として位置づけられている</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="395 860 815 1211"> <p>江戸川区水害ハザードマップ (令和元年5月発行)</p> </div> <div data-bbox="831 860 1458 1211"> <p>「高台まちづくり」のイメージ *『災害に強い首都「東京」形成ビジョン【概要版】(R2.12.15)』を参考に編集</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>当地区における「高台まちづくり」は、             <ol style="list-style-type: none"> <li>避難スペースを確保した建築物の整備・確保（市街地再開発事業の施行・江戸川区庁舎の移転・新設）</li> <li>建築物から浸水区域外への移動を可能とする通路の整備</li> <li>民間活力を活用した建築物、高台の整備</li> </ol>             を想定           </li> <li>令和3年3月に「船堀駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定・公表し、『災害に強い首都「東京」形成ビジョン』における当地区の位置づけを踏まえ、高台整備を実施（江戸川区庁舎等を新設整備）する箇所</li> <li>江戸川区庁舎の移転・新設を伴う市街地再開発事業は、令和5年度に都市計画決定、令和10年度に江戸川区庁舎移転を予定</li> </ul> <p>出典：「災害に強い首都「東京」形成ビジョン概要版」  <a href="https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/renrakukaigi/pdf/vision2.pdf">https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/renrakukaigi/pdf/vision2.pdf</a>            東京都江戸川区 HP 船堀駅周辺地区まちづくり基本構想  <a href="https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e082/toshikeikaku/chiki/funabori/plan/koso.html">https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e082/toshikeikaku/chiki/funabori/plan/koso.html</a>            日鉄興和不動産 HP 「船堀四丁目地区第一種市街地再開発事業」事業協力者に選定  <a href="https://www.nskre.co.jp/company/news/2021/10/20211027.pdf">https://www.nskre.co.jp/company/news/2021/10/20211027.pdf</a></p>

## 4. 参考事例

### (3) 津波浸水想定区域の表示

所在地	和歌山県（海南市、有田市、湯浅町、広川町、由良町、日高町、日高川町、美浜町、御坊市、印南町、みなべ町、田辺町、白浜町、すさみ町、串本町、古座川町、那智勝浦町、太地町、新宮市）
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>和歌山県では、警戒避難体制を特に整備すべき区域として、津波防災地域づくりに関する法律に基づく、「津波災害警戒区域」を南海トラフ大地震による津波が想定される市町村を対象に指定</li></ul>

## 4. 参考事例

<p>主な 取組 内容 等</p>	<p><b>【津波災害警戒区域（イエローゾーン）について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域</li> <li>津波災害警戒区域（イエローゾーン）内には土地利用や開発行為等に規制はかからない</li> <li>指定に当たっては、「基準水位」も併せて公示</li> </ul>  <p><b>【津波災害警戒区域（イエローゾーン）指定の目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「区域指定」することで、市町及び避難促進施設（社会福祉施設、学校、医療施設等）における避難対策がより確実なものになる</li> <li>津波災害警戒区域（イエローゾーン）における対策             <ol style="list-style-type: none"> <li>市町の地域防災計画への津波警戒避難体制（避難施設・避難経路、津波避難訓練、情報伝達等）や避難促進施設に関する事項の記載</li> <li>市町による津波ハザードマップの見直し</li> <li>市町による避難施設の指定・管理協定の締結</li> <li>避難促進施設における避難確保計画の作成、津波避難訓練の実施</li> </ol> </li> <li>「基準水位」の公表により、効率的な避難対策が可能</li> <li>津波から避難する上での有効な高さが想定でき、避難施設整備の目安になる</li> </ul>  <p>出典:和歌山県 HP <a href="https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/082500/tsunami_keikai.html">https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/082500/tsunami_keikai.html</a>          和歌山県「和歌山県津波避難計画策定指針」  <a href="https://www.asahi.com/articles/ASP6G6Q79P68PITB018.html">https://www.asahi.com/articles/ASP6G6Q79P68PITB018.html</a></p>
-------------------------------	---

### (4) 防災協力農地

所在地	大阪府寝屋川市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に市民の安全確保と円滑な復旧活動に役立てる用地を確保するため、農地所有者の方の協力を得て、田畑を一時避難空間や復旧用資材置場等として利用</li> </ul>

## 4. 参考事例

主な  
取組  
内容  
等

- 災害時に市民の安全と円滑な復旧活動に役立てる用地の確保を目的に、地震等の災害が発生したときに食糧生産の場である田んぼや畑として利用されている農地を一時避難空間や復旧資材置場等として利用できるよう、農家の協力を得てあらかじめ登録
- 阪神・淡路大震災を契機に大阪府が推進した防災協力農地の構想を、2003年に大阪府内で初めて制度化され、約9haでスタート
- 令和3年3月末現在の登録状況  
筆数：164筆  
面積：133,502㎡
- 防災協力農地に登録されると、災害発生日から7日間、避難空間として使用される他、災害発生日から8日以上、避難空間として使用する必要が生じた場合又は仮設住宅建設用地若しくは復旧用資材置場等として使用する必要が生じた場合には、その使用の要請があれば、積極的に協力することとされている
- 災害時の延焼遮断帯や避難場所等としての機能の他、雨水の保水・浸透機能等、グリーンインフラとしての機能も期待されている
- 都市農業の悩みともいえる農作業時の騒音、虫の発生、農薬散布などに対する近隣住民からの苦情、農地へのゴミ投棄といった問題も、防災協力農地が広がるとともに市民の意識が高まり、減少傾向に

出典：農林水産省 HP [https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1305/spe1\\_05.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1305/spe1_05.html)  
寝屋川市 HP 「防災協力農地」

[https://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization\\_list/machizukurisuishin/sangyoshinkohitsu/nougyou/toshinougyou/1378087391540.html](https://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization_list/machizukurisuishin/sangyoshinkohitsu/nougyou/toshinougyou/1378087391540.html)



防災協力農地案内標識



防災協力農地案内標識を掲出した農地

## 4. 参考事例

### (5) 企業と市民が一体となった防災活動

所在地	愛知県名古屋市	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害時における地域と事業所との支援協力体制の構築</li> </ul>	
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋市では「防災安心まちづくり運動」を通じて、地域ぐるみで様々な防災に関する取り組みを行っている中で、事業所と地域との双方合意による地域への災害時の支援協力に関する覚書の締結や、事業所と地域の合同訓練といった取り組みを推進</li> <li>「防災安心まちづくり運動」の重点事項の一つである、大規模災害時における地域と事業所との支援協力体制づくりを促進し、地域防災力の向上を図るため、大規模災害時における地域との支援協力に係る覚書等を書面により事業所と締結</li> <li>覚書等を締結した事業所に対し、地域の防災に関して地域貢献している地域防災協力事業所として「地域防災協力事業所表示証」を交付</li> <li>地域防災協力事業所として覚書等を締結した事業所は特に新たな資器材を準備する必要はなく、事業所の敷地を一時的な避難場所・応急救護所として提供することや、消火器や救助資器材（フォークリフトやジャッキ等）の提供、トイレ・入浴の提供、飲料水・井戸水の提供、人員による支援等、協力可能な範囲で災害時に地域への支援協力を実施</li> <li>管轄の消防署の仲介により、学区(小学校区)単位で組織されている防災安心まちづくり委員会や地元の自主防災会の代表者の方等と地域への支援協力内容について検討し、合意のうえ、覚書等を締結</li> <li>事業所の地域に対する支援協力は、不特定多数の市民に対して支援を行うものではなく、あくまで地域内での協力として、覚書を締結した特定の地域（学区等）の住民に対してのみ支援</li> </ul>	 <p>地域防災協力事業所表示証</p>  <p>水害時に立体駐車場を一時的な避難場所として提供</p>  <p>避難場所での給食用コンロとして七輪、炭を提供</p>  <p>震災時の救出機材としてフォークリフトを提供</p>

## 4. 参考事例

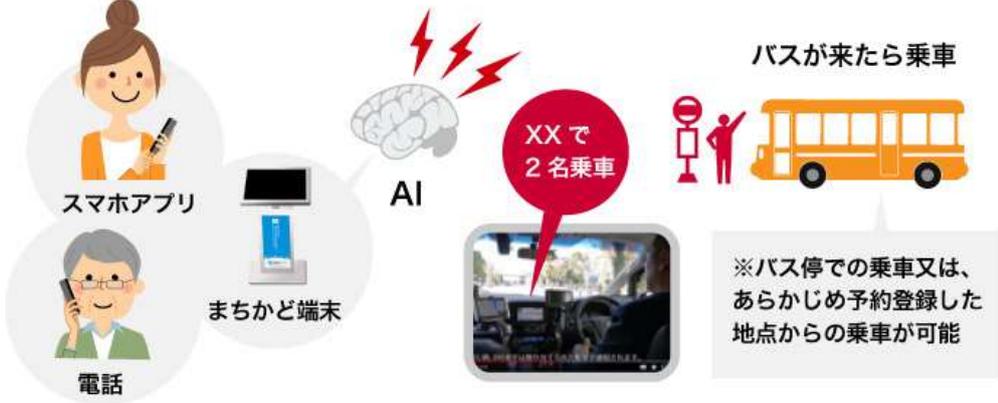
--	--

道路・交通 出典:名古屋市 HP 「地域防災協力事業所表示制度」  
<https://www.city.nagoya.jp/shobo/page/0000013757.html>

### (1) 新たなモビリティサービスの導入

所在地	福島県会津若松市、群馬県前橋市、茨城県水戸市、神奈川県横浜市、横須賀市、国立大学法人九州大学など
概要	• NTTドコモのシステムによる、AI（人工知能）を活用したバス（乗合いタクシー）

## 4. 参考事例

<p>主な 取組 内容 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI (人工知能) を使い、リアルタイムに発生する「乗降リクエスト」から、最適な乗り合わせ ( 乗り合わせる組合せ ) を判断し、「車両配車 + 運行の指示」を行うことにより、利用者にとって効率的な移動を実現</li> <li>AI 運行バスは、利用者の移動の先にある目的地のサービスと交通との連携を可能とする MaaS (Mobility as a Service: 「マース」) プラットフォーム             <ul style="list-style-type: none"> <li>※MaaS とは多様な移動手段とそれに関連する情報をシームレスに統合し、効率的かつ利便性の高い交通サービスをワンストップで利用可能とするビジネス概念</li> </ul> </li> <li>タクシー事業者等の車両を活用し、運転は二種免許を持つ人間が行う</li> </ul> <p>[ AI 運行バスの仕組み ]</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>初期費用：50 万円、月額費用：18 万円～、システム設定値変更費用：10 万円/回 ※営業区域数とバスの車両台数によって異なる</li> <li>乗りたいときに行きたい場所まで、自由に移動できるオンデマンド型公共交通システム</li> <li>乗降場所は定められているが、走行ルートは不定 ( 路線バスとタクシーの間のサービス )</li> <li>地域サービスとの連携が可能 例) 病院や商業施設との連携サービス：通院前日のリマインド通知と同時に AI バスの予約や AI バス利用時に商業施設のクーポン発行による地元経済の活性化に貢献</li> <li>料金は一般的なタクシーより安く、バスよりは高い</li> <li>九州大学での実証実験：学内店舗の来店者が 1.4 倍、売上が 1.7 倍</li> <li>会津若松市での実証実験：観光スポットへの訪問割合が 2.7 倍</li> </ul> <p>出典：NTTドコモホームページ「AI 運行バス®」 <a href="https://www.nttdocomo.co.jp/biz/service/ai_bus/">https://www.nttdocomo.co.jp/biz/service/ai_bus/</a></p>
-------------------------------	--

### (2) デマンド型タクシー

所在地	大阪府寝屋川市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話 1 本で、無料で対象地区内の目的地 ( 自宅、バス停留所、スーパーマーケット、病院など ) や市が指定する対象地区外まで送迎</li> </ul>

#### 4. 参考事例

- ・市内でも特に急な坂や狭い道路が多く、路線バスなどが走っていない3地区において実施
- ・自宅や対象地区内の目的地（自宅、バス停留所、スーパーマーケット、病院など）に加え、市が指定する対象地区外まで送迎
- ・シルバー世代（70歳以上）、妊婦、身体障害者が利用可能
- ・平日の9時～17時に運行し、タクシー車両を利用
- ・事前登録や予約の必要なく、電話一本で利用可能

##### [乗合い事業チラシ]

主な  
取組  
内容  
等

- ・寝屋川市 まちづくり推進部 交通政策課 が事業を実施し、日本タクシー及び第一交通へ運行を委託
- ・料金は無料（対象地区外は一部有料(300円)）



地区外の指定場所（イオンモール四條畷）に設置された乗合い事業の乗降場所標

出典：寝屋川市「乗合い事業【ねやがわ乗合いワゴン事業からリニューアル】」

[https://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization\\_list/machizukurisuishin/kotsu/noriai/1595986054480.html](https://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization_list/machizukurisuishin/kotsu/noriai/1595986054480.html)

## 4. 参考事例

### (3) 道路整備事例

所在地	(各写真に記載)
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつては歩行者空間と自動車が走行する空間を明確に区分した道路空間形成がメインであったが、近年は歩行者にやさしい空間形成や、歩車共存道路の整備が主流となっている</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩車共存道路の事例(区画線あり、なし:シェアスペース※)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="347 439 863 819"> <p>島根県隠岐郡西ノ島町</p>  <p>通学路において、「ゾーン 30」等の整備に合わせ、歩車共存道路(区画線あり)を整備</p> </div> <div data-bbox="908 439 1426 819"> <p>長野県飯田市</p>  <p>歩車共存道路(区画線なし)の整備事例</p> </div> </div> <p>※シェアスペースは限られた道路幅員の中で、歩道と車道の分離構造を設けず、主に視覚的な効果によって自動車速度を抑制し、歩行者と自動車の共存環境を創出</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>通過交通排除に向けた道路整備事例(シケイン・ハンプ)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="354 1048 869 1435"> <p>愛知県名古屋市</p>  <p>車両通行領域の線形をジグザグにして速度低減を図るシケイン</p> </div> <div data-bbox="908 1048 1426 1435"> <p>広島県福山市</p>  <p>車道に設置した凸形路面で通過する車両を押し上げ、車両の速度低下を図るハンプ</p> </div> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわい形成に向けた道路の歩行者空間化</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="354 1559 869 1939"> <p>神戸市三宮中央通り線</p>  <p>「ほこみち(歩行者利便増進道路)」に指定して歩行者空間を広げた事例</p> </div> <div data-bbox="908 1559 1426 1939"> <p>松山市花園町通り</p>  <p>歩いて暮らせるまちを目指し、道路空間の再配分により、車道幅員を縮めて歩道部分を拡</p> </div> </div> <p>出典: 国交省資料 <a href="https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/life_road/pdf03/3.pdf">https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/life_road/pdf03/3.pdf</a> 等          島根県 HP <a href="https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/oki_kendo/r485_urago_hosha.html">https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/oki_kendo/r485_urago_hosha.html</a>          国土技術政策総合研究所 研究資料 <a href="http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn1026pdf/ks102609.pdf">http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn1026pdf/ks102609.pdf</a></p>

## 4. 参考事例

### (4) 公共交通の自動運転

所在地	滋賀県大津市、東近江市	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>超高齢社会における新たな移動手段と観光客の二次交通確保のための、公共交通の自動運転化</li> </ul>	
主な取組内容等	<p>[大津市]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進む中山間地の移動手段確保や深刻な運転手不足の解消という官民双方の課題解決に向け、2018年度から2021年度にかけて、計4回の自動運転実証実験を実施</li> <li>2020年度の実用化を目指していたものの、縁石への接触事故等があり、断念</li> <li>利用者アンケートでは「思った以上に快適だった」「また乗車したい」などと好意的な意見も多かった一方、非利用者約2千人がインターネットで回答したアンケートでは、自動運転に不安を感じている人が多く、市の実証実験を知っていたのは4割にとどまった</li> <li>今後、慢性的な遅延や接触事故への対応等の技術的な課題に加え、MaaSとの組み合わせによる収支採算性の確保や駐停車車両への対応等の運営面での課題への対応が必要</li> </ul> <p>[東近江市]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政機能・出張診療所・市場（日曜開催）・健康イベント開催等、多様な機能を有する道の駅「奥永源寺溪流の里」と集落や登山口を結ぶ片道約2.2kmのルートにおいて、2019年11月から12月にかけて、36日間の長期実証実験を実施し、2021年4月より社会実装開始（一部100m程手動運転区間）。秋田県北秋田郡上小阿仁村に次ぐ二例目の事例</li> <li>車両定員は6名（乗客は4名）。自動走行時の速度は12km/h程度。道路に敷設した電磁誘導線で車両を誘導。運転手はハンドル下のレバーに手を添えるだけで、ハンドルを握ると、手動運転に切り替わる仕組み</li> <li>運行は、週4日（水・金・土・日曜日）の午前2便と午後4便の計6便。運賃は1回につき150円、1日乗車券350円、回数券（6枚）600円、定期券（1ヵ月）1,000円。農作物や日用品等の荷物輸送は1回100円</li> <li>ルート上には看板や路面標示を設置し、地域の協力を出典：  <b>大津市</b> HP「<a href="https://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/287/kaigisiryou.pdf">第9回大津市自動運転実用化プロジェクト会議の開催結果</a>」  <a href="https://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/287/kaigisiryou.pdf">https://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/287/kaigisiryou.pdf</a>  <b>国庫省 近畿地方整備局</b> HP「<a href="https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/jidouuntan/019a8v000000a24a-att/service.pdf">道の駅「奥永源寺溪流の里」を拠点とした自動運転サービス実証実験</a>」  <a href="https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/jidouuntan/019a8v000000a24a-att/service.pdf">https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/jidouuntan/019a8v000000a24a-att/service.pdf</a>  <b>東近江市</b> HP「<a href="https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000013003.html">道の駅「奥永源寺溪流の里」を拠点とした自動運転サービスがスタートしました！</a>」  <a href="https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000013003.html">https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000013003.html</a>  <b>京都新聞</b> HP「<a href="https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/486404?page=1">事故相次ぎ自動運転バスの早期実用化が困難に 市民には期待の声も</a>」  <a href="https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/486404?page=1">https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/486404?page=1</a> 2022年2月17日参照  <b>京都新聞</b> HP「<a href="https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/553198">全国2例目の自動運転サービス、滋賀でスタート</a>」  <a href="https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/553198">https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/553198</a> 2022年2月17日参照</li> </ul>	 <p>2020年度実証実験車両(大津市)</p>  <p>2021年度実証実験車両(接触事故を受け、小型車へダウンサイジング)</p>  <p>運行初日の様子(東近江市)</p> 

#### 4. 参考事例

--	--

## 4. 参考事例

### (5) 空飛ぶクルマ

所在地	大阪府、三重県等	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>明確な定義はないが、「電動」「自動（操縦）」「垂直離着陸」が一つのイメージ。「クルマ」と称するものの、必ずしも道路を走行する機能を有するわけではなく、個人が日常の移動のために利用するイメージを表している</li> </ul>	
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸外国では、eVTOL ( Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft ) や UAM ( UrbanAir Mobilty ) と呼ばれ、新たなモビリティとして世界各国で機体開発の取組がなされている</li> <li>我が国においても、都市部での送迎サービスや離島や山間部での移動手段、災害時の救急搬送などの活用を期待し、次世代モビリティシステムの新たな取り組みとして、世界に先駆けた実現を目指している</li> <li>平成30年12月に「空の移動革命に向けたロードマップ」を策定し、令和元年6月に閣議決定された「成長戦略フォローアップ」において『“空飛ぶクルマ”の実現に向けた「空の移動革命に向けたロードマップ」に基づき、2023年からの事業開始を目標として、それまでに必要な技術開発や機体の安全基準をはじめとする制度の整備を進める。』と位置づけ</li> <li>大阪府では「空飛ぶクルマ」の実現をめざし、令和2年11月に、産学官40超のプレイヤー参画による「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル」を設立。令和7（2025）年の大阪・関西万博までに開発を実現すべく、関係者間で精力的に協議を進めており、令和3年8月には「空飛ぶクルマの実現に向けた実証実験」に対する補助金の交付を決定</li> <li>上記補助金交付を受けたANAホールディングスは、トヨタ自動車などが出資する米新興企業ジョビー・アビエーションと「空飛ぶ車」事業で業務提携</li> <li>ジョビー・アビエーションの電動式垂直離着陸機（eVTOL）を利用すれば、自動車で1時間前後かかる大阪駅—関西国際空港間を15分以内で結ぶことが可能に。ジョビー・アビエーションは令和6（2024）年の商用化を目指している</li> <li>三重県においても、「空飛ぶクルマ」を活用して、交通・観光・防災・生活等の様々な地域課題を解決し、地域における生活の質の維持・向上を図るとともに、新たなビジネスの創出を目指すために、利活用方法の検討や受入環境の整備、事業化を見据えた実証実験の誘致に取り組んでいる</li> </ul>	 <p data-bbox="1050 770 1406 797">Honda が開発に取り組む eVTOL</p>  <p data-bbox="1038 1323 1417 1350">ジョビー・アビエーションの eVTOL</p>  <p data-bbox="1007 1767 1449 1827">三重県が「空飛ぶクルマ」を活用してめざす社会像</p> <p data-bbox="304 1973 1401 2204"> <small>出典</small>            国交省資料「空飛ぶクルマについて」 <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001400794.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001400794.pdf</a>            Honda HP「Honda の新領域への取り組みについて」 <a href="https://www.honda.co.jp/news/2021/c210930b.html">https://www.honda.co.jp/news/2021/c210930b.html</a>            時事通信社 HP「米新興企業、ANAと「空飛ぶ車」提携 大阪駅—関空15分」2022年2月15日閲覧 <a href="https://www.jiji.com/jc/article?k=2022021500479&amp;g=int">https://www.jiji.com/jc/article?k=2022021500479&amp;g=int</a>            ANAホールディングス株式会社 HP「ANAホールディングスとJoby Aviationがパートナーシップを発表」 <a href="https://www.anahd.co.jp/group/pr/202202/20220215-2.html">https://www.anahd.co.jp/group/pr/202202/20220215-2.html</a>            大阪府 HP「報道発表資料」 <a href="https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&amp;pageId=42150">https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&amp;pageId=42150</a>  <a href="https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&amp;pageId=41573">https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&amp;pageId=41573</a> </p>

#### 4. 参考事例

--	--

##### (6) 自転車を活用したまちづくり

所在地	石川県金沢市
概要	• 交通戦略における自転車利用自転車利用環境の向上を明記し、自転車活用推進計画を策定する等、官民一体となって多様な視点で自転車を積極的に活用

## 4. 参考事例

### 主な 取組 内容 等

- 金沢市では、平成22年度に金沢市まちなか自転車利用環境向上計画を策定し、学識者・国土交通省・県・市・県警等からなる「金沢自転車ネットワーク協議会」を平成23(2011)年2月に設置。道路管理者と交通管理者の情報共有や共通認識の形成を図りつつ、各種施策を継続的に展開
- 自転車通行空間ネットワークの形成、駐輪場の整備、シェアサイクル「まちなか」の導入(平成24年～)、自転車マナーアップ強化の日の設定と街頭指導等の実施など、総合的な自転車まちづくり施策を着実に実施
- 平成28(2016)年に策定された「第2次金沢交通戦略」において、自転車利用環境の向上を明記
- 金沢市まちなか自転車利用環境向上計画を引き継ぐ形で、金沢市自転車活用推進計画を令和2(2020)年に新たに策定。「市民のライフスタイルに自転車が浸透し、誰もが安全で快適に自転車を活用できるまちを創る」の実現に向けて、基本方針として、「はしる」(安全で快適な自転車通行環境の創出)、「とめる」(便利で使いやすい駐輪環境の創出)、「まもる」(ルール遵守・マナー向上)、「いかしひろめる」(誰もが気軽に自転車を活用できるまちづくり)の4本柱を設定
- シェアサイクル「まちなか」は、当初観光客による利用が9割を占めていたが、市民利用の増加等を目指し、令和2年にシステム変更(自転車台数及びサイクルポートの増設、利用時間延長・採算性のある料金体系の導入等)。コロナ禍により観光客の利用は減少したものの、市民利用を中心とする月額会員利用は、増加(令和元年から令和2年にかけて約3倍)
- シェアサイクル「まちなか」の自転車は、災害時に市職員が活用できるよう、市と事業者間で連携協力協定を締結
- 自転車施策を総合的に展開した結果、路上放置自転車台数が平成20(2008)年度から平成30(2018)年度で65%減少、市内の自転車関連事故発生件数が平成20(2008)年から令和元(2019)年で72%減少、シェアサイクル「まちなか」に関しては平成26(2014)年度から令和元(2019)年度にかけて6年連続で数値目標としている利用回数10万回以上を達成

出典:

国土交通省資料「金沢市におけるシェアサイクルの取組」<https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/sharecycle/pdf02/03.pdf>

公益財団法人 自転車駐輪場整備センター「自転車まちづくり事例集」

<https://www.jitensha.jp/wp-jitensha/wp-content/themes/jitensha/assets/pdf/investigation/jireisyu.pdf>

金沢市 HP「第2次金沢交通戦略」<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/11031/keikaku/machidukuriplan/koutsusenryaku.html>

金沢市 HP「金沢市自転車活用推進計画」<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/27123/6/jikatsukei.pdf?20200316115643>

金沢市 HP「自転車通行空間整備について」

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/11310/taisaku/cycle-plan/jitennsyasoukokuukannseibinituite/jitennsyatuukokuukanseibi.html>

金沢市観光公式サイト「金沢旅物語」[https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/access/detail\\_50083.html](https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/access/detail_50083.html)

北陸中日新聞HP「レンタサイクル 災害時活用 金沢市運営や管理会社と協定」2022年2月16日閲覧 <https://www.chunichi.co.jp/article/110750>



金沢市自転車活用推進計画に基づき整備された自転車レーン(自転車専用通行帯)



金沢市自転車活用推進計画に基づき整備された自転車走行指導帯



観光名所である長町武家屋敷に設置された「まちなか」のサイクルポート

コミュニティ

### (1) 団地の農場「日の里ファーム」

#### 4. 参考事例

所在地	福岡県宗像市日の里	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>UR 都市機構の団地再生事業における、団地住民の生きがいがづくり</li> </ul>	
<p>主な 取組 内容 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020 年に開発から 50 年を迎えた老朽化する UR 都市機構の日の里団地においては、少子高齢化が進行し、団地の魅力アップが求められていた</li> <li>2016 年に、全国で初となる、ビニールハウスタイプの団地の農場「日の里ファーム」が団地内の広場に設置され、団地住民を中心にした「日の里ファームクラブ」のメンバーが野菜を育てている</li> <li>東レ建設株式会社の農業施設「トレファーム」を用いることで、台風に強だけでなく、野菜を育てるスペースが高床式となり、高齢者でもしゃがまず楽に作業が可能。また、連作障害が起きにくく、水や電気の消費量が少ないという特徴を有する</li> <li>「日の里ファームクラブ」のメンバーは、週 2、3 回、都合のつく時間にやって来て野菜栽培を楽しむ</li> <li>小松菜やレタスといった葉物野菜を中心に、「日の里ファームクラブ」のメンバーが好きな野菜をつくるスペースもある他、夏にはトマト、春にはイチゴなども栽培</li> <li>収穫された野菜は、毎週行われている朝市で販売されている他、近隣小学校の給食用にも提供</li> <li>中学生の職業体験の場としても活用</li> <li>高齢者の方の外出機会・生きがいがづくりだけでなく、「日の里ファームクラブ」メンバーや登下校時に立ち寄る子どもとの交流等、新たなコミュニティ・多世代交流の場として地域に貢献する等、様々な波及効果</li> </ul> <p>出典： UR 都市機構 HP <a href="https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress46/special4.html">https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress46/special4.html</a> <a href="https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/201810/000229.html?relation=1">https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/201810/000229.html?relation=1</a> <a href="https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/201912/000450.html?relation=1">https://www.ur-net.go.jp/chintai/college/201912/000450.html?relation=1</a> 日本総合住生活株式会社 HP <a href="https://www.js-net.co.jp/business/new_business/pdf/pdf_hinosato.pdf">https://www.js-net.co.jp/business/new_business/pdf/pdf_hinosato.pdf</a></p>	 <p>「日の里ファーム」の全景</p>  <p>「日の里ファーム」での作業風景</p>  <p>「日の里ファーム」前で遊ぶ子どもたち</p>

#### 4. 参考事例

所在地	京都府京都市下京区四条通新町東入ル月鉾町 52 番地 イヌイ四条ビル 3 階 flag 四条
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援組織として、行政・企業・大学・NPO 等、多様な組織との協働を促進</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定非営利活動法人きょうと NPO センターは、中間支援組織として、行政や企業を含め社会を構成する多様なステークホルダーの機能をつないで引き出し、パートナーシップ（協働）を促す役割を担っている</li> <li>NPO に対しては、ヒト・モノ・カネを中心とした社会資源の仲介や社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の開発、それらの資源が効果的に活用されるように情報の収集及び発信を行うゲートキーパーとしての役割を担当</li> <li>また、大学のまち京都という地域特性を活かし、各種研究機関、専門機関と連携し、革新的な事業展開も実施。コミュニティ FM 放送局（京都三条ラジオカフェ：日本初の市民が主役の NPO 放送局。所定の放送利用料で、誰でもラジオ番組を放送することが可能）や、新たな寄付のプラットフォームであるコミュニティ財団（公益財団法人 京都地域創造基金）、組織やシステム評価に基づくキャパシティービルディング（組織基盤強化）、コンサルテーション機能を担う評価専門機関（一般財団法人社会的認証開発推進機構）の設立等を実現</li> </ul> <div data-bbox="327 913 1460 1547" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: right; color: red;">KNC 組織体制（2020・4・1現在）</p> </div> <p style="text-align: center;">きょうと NPO センター組織図</p> <p>出典：          きょうと NPO センターHP  <a href="https://kyoto-npo.org/">https://kyoto-npo.org/</a>          きょうと NPO センター常務理事：わがパーパス<sup>⑤</sup>  <a href="https://www.alterna.co.jp/30961/">https://www.alterna.co.jp/30961/</a></p>

#### (3) 老若男女が集まり、社会的孤立を防ぐ場の創出

所在地	石川県輪島市
-----	--------

## 4. 参考事例

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き家や空き地を利用して子供から高齢者、障害者、国籍等に関わらず暮らせるまちの創出</li> </ul>
<p>主な取組内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会福祉法人佛子園が輪島市中心部に点在する空き家・空き店舗や空き地を利活用し、子どもから高齢者、障害や疾病の有無・国籍等に関わらず地域に暮らすすべての人たちの共生拠点創出に向けて取り組むプロジェクト「輪島 KABULET® (カブーレ)」</li> <li>• 平成 26 年度に内閣府まち・ひと・しごと創生本部が選定する「生涯活躍のまち」先行 7 モデルの一つとして採択された事業</li> <li>• 青年海外協力協会 (JOCA) と包括連携協定を結び、多くの帰国隊員が本プロジェクトに参加</li> <li>• 温泉施設を中心に、レストランのほか、地域住民の会合・交流の場となる住民自治室を備える拠点施設に加え、隣接地には、高齢者デイサービスと訪問介護ステーションがあり、近隣施設を含めた全体が障がい者や高齢者の就労支援の場所となっている</li> </ul> <div data-bbox="331 651 762 725" style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>空き家・空き地を活用し、まちなかに拠点施設等を整備</p> </div> <div data-bbox="331 734 718 907"> <p style="text-align: center;">Before</p> </div> <div data-bbox="726 772 774 862" style="font-size: 2em; color: #0056b3;"> <p>➡</p> </div> <div data-bbox="782 651 1444 907"> <p style="text-align: center;">After</p> </div> <p style="text-align: center;">輪島カブーレ拠点施設の従前・従後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• こうした「ごちゃまぜ」な施設を整備することで、住民自治室で遊ぶ子供たちから温泉に来た近所のおじいちゃん、各サービスの利用者など、様々な人が集まれる場所を形成</li> <li>• さらに、公道をはさんで健康増進施設としてのウェルネス施設、カフェ、リラクゼーション施設を備えた子育て支援施設が点在。これらの施設のほか、拠点施設を中心に数百メートル以内には、サービス付き高齢者向け住宅や女性障害者向けグループホームなどがあり、多様な施設を兼ね備えている</li> </ul> <div data-bbox="954 969 1465 1323"> </div> <p style="text-align: center;">輪島カブーレ拠点施設周辺に点在する各施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• その他、ゲストハウスや2輪専用ガレージに加え、テレワークやワーケーションに対応した施設も有しており、地元客だけではなく観光客等にも多く利用され、観光客等にとっての地方体験の交流施設としての役割も有している</li> </ul> <div data-bbox="323 1525 715 1753"> <p style="text-align: center;">健康促進施設 (ウェルネス)</p> </div> <div data-bbox="738 1525 1106 1753"> <p style="text-align: center;">子育て支援施設 (ママカフェ)</p> </div> <div data-bbox="1129 1525 1465 1753"> <p style="text-align: center;">交流拠点施設 (やぶかぶれ)</p> </div> <p style="text-align: center;">輪島カブーレによって整備された各施設の様子</p> <p>出典：          輪島 KABULET®カブーレ HP <a href="https://wajima-kabulet.jp/index.html">https://wajima-kabulet.jp/index.html</a>          国交省「住み続けられる国土専門委員会 2019 年とりまとめ」 <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001289113.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001289113.pdf</a>          内閣官房・内閣府総合サイト HP <a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/ccrc/tyubu/172049_r030401_wajima.pdf">https://www.chisou.go.jp/sousei/about/ccrc/tyubu/172049_r030401_wajima.pdf</a></p>

## 4. 参考事例

### (4) 公共施設の再編・集約化による取り組み

所在地	愛知県春日井市	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>高蔵寺ニュータウン内の小学校の児童数減少に伴う統廃合により、廃校となった旧藤山台東小学校を校舎の外観や教室の床はそのまま残し、リノベーションして開設</li> <li>「まなび」「交流」「居場所」をコンセプトとした多世代交流拠点施設として活用</li> </ul>	
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高蔵寺ニュータウンの藤山台中学校区内にある3小学校（藤山台・藤山台東・西藤山台）の児童数は昭和55（1980）年に計1850人とピークに達したが、以後は緩やかに減少を続け、平成23年度にはピーク時の約3分の1程度になった</li> <li>平成23年度には藤山台・藤山台東小学校の学級数は6学級（1学年1学級）となり、春日井市は小学校の規模の適正化を検討。平成25（2013）年に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合して新・藤山台小学校を設立し、暫定的に藤山台東小学校の校舎を使用</li> <li>平成28（2016）年には旧・藤山台小学校の敷地に新校舎が完成し、新・藤山台小学校が移転の上、西藤山台小学校を統合</li> <li>その後、藤山台東小学校の校舎をリノベーションし、平成30年4月1日に、コミュニティカフェや図書館に加え、児童館の他、地域包括支援センター、会議室、体育館等が備わった複合施設「グルッポふじとう」として開所</li> <li>「グルッポふじとう」は、イタリア語で「集まり」を意味するグルッポと、藤山台東小学校の略称であった「ふじとう」を合わせた言葉</li> <li>施設は春日井市が所有し、第三セクターであり春日井市や春日井商工会議所が出資する高蔵寺まちづくり株式会社が指定管理者として施設の管理運営を行い、NPO法人「まちのエキスパネット」に運営の一部を委託</li> <li>施設内には、「こどもとまちのサポートセンター」と銘打ち、0歳から就学前までの子どもの発達を支援する療育機関や小学生から高校生まで、それぞれの発達に合わせた放課後のサポートをする場を提供（NPO法人「まちのエキスパネット」が運営）</li> <li>起業・活動支援をするスペースレンタル事業も行っており、複合施設のメリットを活かした児童館・コミュニティカフェ・地域包括支援センター等との連携も特徴的</li> <li>かつての校庭のスペースを活用し、2021年3月に遊具広場、9月には芝生広場を整備</li> </ul> <p>出典： 春日井市 HP「高蔵寺ニュータウン公式サイト」 <a href="https://kozoji-nt.com/gruppo/">https://kozoji-nt.com/gruppo/</a> 春日井市教育委員会資料「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第1次小学校統合計画」 <a href="https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/009/215/dai1jikeikaku.pdf">https://www.city.kasugai.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/009/215/dai1jikeikaku.pdf</a></p>	 <p>図書館の様子</p>  <p>児童館の様子</p>  <p>コミュニティカフェの様子</p>  <p>2021年に整備された芝生広場と遊具広</p>

## 4. 参考事例

### (5) 空き地・空き家の有効活用に向けた仕組みの構築（ランドバンク）

所在地	山形県鶴岡市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の解消だけでなく、更地後の土地利用までを考慮し、空き家、空き地、周辺の宅地及び道路を一体として捉え、再編し、連鎖させて良好な住環境整備につなげることを目的とした取り組み</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴岡市の中心市街地は、江戸時代の昔ながらの町割りが色濃く残り、旗竿地や囲繞地、狭あい道路などが散見することで住宅の再建築ができないなど、不動産として流通するには困難な物件が多数存在し、空き家発生の一因となり、まちなかの空洞化、人口減少が進んでいる</li> <li>そうした背景を踏まえて、民間業者と地域住民、鶴岡市が連携して、平成23年に「鶴岡市ランド・バンク研究会」を立ち上げ、そこで蓄積された研究成果や、モデル事業の実績などを引継いで創設されたのが、「NPO 法人つるおかランド・バンク」</li> <li>現在、「NPO 法人つるおかランド・バンク」が空き家、空き地、周辺の宅地及び道路を一体として捉え、小規模ではあるがそれを再編し、連鎖させて良好な住環境整備につなげる土地に付加価値を生み出す「小規模連鎖型区画再編（ランドバンク）事業」を実施している他、空き家バンク事業・空き家委託管理事業・空き家コンバージョン事業・つるおかランド・バンクファンドによる助成事業等に取り組んでいる</li> </ul> <div data-bbox="347 918 1460 1209" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">様々な専門家等により構成されている「NPO 法人つるおかランド・バンク」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、狭小地で単独利用が困難な場合に隣接地を含めた小規模な土地の再編を行うことで、コミュニティの活性化や不動産の流通が可能に</li> </ul> <p>【「NPO 法人つるおかランド・バンク」が取り組んだ例（狭あい道路の解）】</p> <div data-bbox="367 1433 1157 1668" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: right;">私有地（黄色ライン間約1mほどの幅）を鶴岡市に道路用地として寄付。車のすれ違いが可能となり、住環境が改善</p> <p>【ランドバンク事業の一般的な流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①B 宅空き家 危険家屋放置状態 所有者B氏より相談を受け、解体を提案</li> <li>②B 宅空き家解体 A C 隣家に土地の低価格売却 解体費は売却費から相殺 前面道路拡</li> <li>③将来 建替え 二世帯住宅の実現 狭あい道路解消</li> </ol> <div data-bbox="311 1836 1468 2004" style="text-align: center;"> </div> <p>出典：          国交省「先駆的空き家対策モデル事業」 <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001234598.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001234598.pdf</a>          一般財団法人国土計画協会「所有者不明土地問題研究会」 <a href="https://www.kok.or.jp/project/pdf/fumei2_01_06_04.pdf">https://www.kok.or.jp/project/pdf/fumei2_01_06_04.pdf</a>          NPO 法人つるおかランド・バンク HP <a href="https://tsuburubank.org/">https://tsuburubank.org/</a></p>

#### 4. 参考事例

--	--

## 4. 参考事例

### 少子高齢化

#### (1) 「みんなの給食」事業

所在地	兵庫県明石市														
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食の多目的化を図るため明石市内に住んでいる 65 歳以上の独居者を対象に、中学校給食を活用し暖かい昼食を提供する「みんなの給食プロジェクト」を開始</li> </ul>														
主な 取組 内容 等	<p><b>【取組内容】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>対象者</td> <td>市内 65 歳以上の一人暮らしの方 ( 日中の間のみの一人暮らしの方を含む )</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>中学校コミュニティセンター( 13 カ所 )</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>20~40 人/回( 会場大きさによる )</td> </tr> <tr> <td>食事代</td> <td>400 円</td> </tr> <tr> <td>申込方法</td> <td>事前にコミュニティセンターへ電話予約</td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>11:45 ( 会食開始 12:25 頃 )</td> </tr> <tr> <td>担当部署</td> <td>明石市福祉局高齢者総合支援室</td> </tr> </table>	対象者	市内 65 歳以上の一人暮らしの方 ( 日中の間のみの一人暮らしの方を含む )	場所	中学校コミュニティセンター( 13 カ所 )	人数	20~40 人/回( 会場大きさによる )	食事代	400 円	申込方法	事前にコミュニティセンターへ電話予約	時間	11:45 ( 会食開始 12:25 頃 )	担当部署	明石市福祉局高齢者総合支援室
	対象者	市内 65 歳以上の一人暮らしの方 ( 日中の間のみの一人暮らしの方を含む )													
	場所	中学校コミュニティセンター( 13 カ所 )													
	人数	20~40 人/回( 会場大きさによる )													
	食事代	400 円													
	申込方法	事前にコミュニティセンターへ電話予約													
	時間	11:45 ( 会食開始 12:25 頃 )													
	担当部署	明石市福祉局高齢者総合支援室													
															
		<p><b>【プロジェクトの狙い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひとりで食事をする高齢者は、食への関心も薄れ、嚥下機能が低下しやすいと言われており、結果として医療費等の増加に繋がるおそれがある。そうした状況を改善すべく、新たに始めた中学校給食を活用し、中学校区のコミュニティセンターで一緒に会話をしながら食事することで、ひとり暮らし高齢者の安否確認や孤立防止に加え、食に対して楽しみや関心を高めてもらい、精神的ケアや介護予防につなげていくことを目的としている</li> </ul>													
	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パイロット事業(3か年予定)の2年目として、現在はひとり暮らしの高齢者を対象としている。将来的には身障者やひきこもりの方など、幅広い市民が参加できる事業にする構想がある</li> <li>課題としては会場によって利用者が少ないケースがある。また、全体の利用者を増やすことが課題でもある。ただし、中学校給食の運営に支障をきたさないことが条件となっており、準備や会食時間に制約が生じることが想定されている</li> </ul>														
															
															
															
	<p>給食の配膳等は ボランティア団体等に業務委託</p> <p>中学生の給食とバッティング しないよう時間帯を分けて作業</p> <p>実際のメニュー</p>														
	<p>出典: 明石市 HP <a href="https://www.town.kumano.hiroshima.jp/www/contents/1625136065811/index.html">https://www.town.kumano.hiroshima.jp/www/contents/1625136065811/index.html</a> 給食ひろば <a href="https://www.kyushoku.jp/report/2019/12/20519/">https://www.kyushoku.jp/report/2019/12/20519/</a> (全国の栄養士のためのコミュニティ)</p>														

#### 4. 参考事例

--	--

##### (2) 小中一貫校の取組（宇治おうぼく黄檗学園）

所在地	京都府宇治市五ヶ庄三番割 27 番地
概要	• 宇治市で初めてとなる施設一体型小中一貫校（平成 24 年 4 月開校）

#### 4. 参考事例

<p>主な 取組 内容 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立宇治小学校と市立黄檗中学校からなる小中一貫校</li> <li>「宇治黄檗学園」という名称は、児童生徒や教職員などが一体感を持てるように市民から公募した愛称</li> </ul> <p><b>【主な特色】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「宇治黄檗学園」では、小学校と中学校の施設、組織・運営を一体化した形態で、教職員、児童生徒が同一敷地で日常的に交流を行いながら教育活動を展開する「小中一貫教育」を実施</li> <li>『『きずな』ではぐくむ、9年間の学び』を基本コンセプトに、宇治小学校と黄檗中学校を「宇治黄檗学園」として一体化し、子どもたちの発達の特성에 応じて、前期（1年生～4年生）・中期（5年生～7年生）・後期（8年生～9年生）各ステージのまとまりとしてとらえ教育活動を実施</li> <li>小・中学校の教員がチームティーチング（複数の教員による指導）授業を行うほか、発達段階に応じた指導や、小学校と中学校を滑らかに連続させる指導を進めるなど、小学校と中学校の教職員の相互連携による指導の充実化</li> <li>教科連携教員（中学校教員）による専門性を活かした指導や学級担任間の交換授業など、小学校高学年で一部教科担当制を実施</li> <li>小学生と中学生との交流活動・合同活動の充実による豊かな人間関係形成</li> <li>中学1年生の振り返り集中学習（小学校教員も支援）をはじめ、基礎基本の徹底を図る「いしずえ学習」を実施</li> <li>地域との関わりの視点や小学校と中学校の系統性を高める視点で作成したカリキュラムによる「宇治学（総合的な学習の時間）」を実施</li> </ul> <p>出典：          宇治黄檗学園 HP  <a href="http://www.uji.ed.jp/ujiobaku-g/home/index/syukai/">http://www.uji.ed.jp/ujiobaku-g/home/index/syukai/</a>          宇治市の小中一貫教育  <a href="https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/12496.pdf">https://www.city.uji.kyoto.jp/uploaded/attachment/12496.pdf</a></p>
-------------------------------	---



宇治市の小中一貫校 カリキュラムフロー図

#### (2) 小中一貫校の取組（とどろみの森学園・彩都の丘学園）

#### 4. 参考事例

所在地	大阪府箕面市森町中1丁目23-14(とどろみの森学園)・箕面市彩都栗生北2-1-5(彩都の丘学園)																																				
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府で初めて、二番目となる施設一体型小中一貫校</li> </ul>																																				
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年に止々呂美小学校、止々呂美中学校が現在地に新築・移転し、「とどろみの森学園」(愛称)として統合</li> <li>2011年に周辺の宅地開発がすすみ、「彩都の丘学園」(愛称)を新設。年々学校規模が拡大、新校舎を増築</li> <li>9年間を前期(1学年-4学年=小学校1-4年)・中期(5学年-7学年=小学校5-6年・中学校1年)・後期(8学年-9学年=中学2-3年)の3期に分けた小中一貫教育を実施</li> <li>1時限あたり50分の授業を実施(彩都の丘学園)</li> <li>制服は5年生から着用(彩都の丘学園)</li> </ul> <p><b>【主な特色】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校教員が担当教科の専門性を生かして小学校で授業を実施することや、各教科での小中一貫の教材編成、学校行事など教科外活動の合同実施、学校事務の共通化</li> <li>大阪大学、ライフサイエンスパーク企業と連携した国際交流や科学実験教室など、特色ある教育活動を展開(彩都の丘学園)</li> <li>最新の情報機器を活用した授業を行っており、調べ学習用に無線LAN設置、各普通教室に大型テレビ、実物投影機、パソコンを設置(彩都の丘学園)</li> <li>防犯面に配慮した行止まりのない口の字型4階建校舎(彩都の丘学園)</li> <li>普通教室前にはくつろいだり遊んだりできるオープンスペースを設置(彩都の丘学園)</li> <li>小中学生と一緒に給食を食べる広くて明るいランチルームを設置(彩都の丘学園)</li> <li>図書館の隣に各自で利用できる調べ学習室を設置(彩都の丘学園)</li> <li>廊下と教室の間の壁をなくし、廊下部分を広い学習スペースとして活用する「オープンスペース型教室」を採用(彩都の丘学園)</li> </ul>																																				
	<table border="1"> <tr> <th colspan="4">小 学 校</th> <th colspan="5">中 学 校</th> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> <td>4年生</td> <td>5年生</td> <td>6年生</td> <td>7年生</td> <td>8年生</td> <td>9年生</td> </tr> <tr> <td colspan="4">前期 4年</td> <td colspan="3">中期 3年</td> <td colspan="2">後期2年</td> </tr> <tr> <td colspan="6">学級担任制</td> <td colspan="3">教科担任制</td> </tr> </table>	小 学 校				中 学 校					1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	前期 4年				中期 3年			後期2年		学級担任制						教科担任制		
小 学 校				中 学 校																																	
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生																													
前期 4年				中期 3年			後期2年																														
学級担任制						教科担任制																															
	 <p style="text-align: center;">とどろみの森学園</p>  <p style="text-align: center;">彩都の丘学園</p>																																				
	<p>出典:</p> <p>箕面市 HP <a href="https://www.city.minoh.lg.jp/saitoikkanko/saitonookagakuen.html">https://www.city.minoh.lg.jp/saitoikkanko/saitonookagakuen.html</a></p> <p>箕面市教育委員会 HP <a href="https://www.city.minoh.lg.jp/todorominomori/">https://www.city.minoh.lg.jp/todorominomori/</a></p> <p><a href="https://www.city.minoh.lg.jp/saitonooka/index.html">https://www.city.minoh.lg.jp/saitonooka/index.html</a></p> <p>産経新聞 HP <a href="https://www.sankei.com/life/photos/210514/lif2105140014-p1.html">https://www.sankei.com/life/photos/210514/lif2105140014-p1.html</a> (2021年5月14日)</p>																																				

## 4. 参考事例

### (3) 学校の機能複合化

所在地	京都府京都市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校統合を契機に校舎を整備、敷地の有効活用と機能複合化</li> </ul>
学校名	京都市立京都御池中学校
学校規模/構造	19学級 699名/RC造地上7階地下1階 特別支援学級1学級7名
整備時期	平成18年
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元要望による学校統合を契機に校舎を整備。京都市内でも有数の立地であることから、敷地の有効活用を図った</li> <li>学校の教育活動に貢献し、地域にも必要性の高い保育所や高齢者福祉施設と共に賑わい施設も併設</li> </ul>
施設の主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設の入口や内部動線は異なるが、中学校のグラウンドをコの字型に囲み、グラウンドを通じて各施設の様子が見える</li> <li>御池通りに面する位置に賑わい施設を配置</li> </ul>
効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民により、「新中学校設立推進委員会」が設立され、新しい中学校の在り方や校舎施設について議論⇒地域の教育と福祉拠点施設が形成</li> <li>中学校の生徒が保育所や高齢者福祉施設で職業訓練を行う他、高齢者や園児とのイベントが開催される等コミュニティが形成</li> </ul>

主な  
取組  
内容  
等

施設の配置・動線・写真

立面図

配置図

御池通に面した賑わい施設

茶道や華道、着付けなどの伝統的な文化に取り組める和室

高齢者福祉施設からは中学校のグラウンドの様子が見える

出典：  
 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議  
 「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生～(素案)」より

#### 4. 参考事例

##### (4) 塾代助成事業（大阪府大阪市）、子ども・若者応援クーポン事業（兵庫県尼崎市）

所在地	大阪府大阪市、兵庫県尼崎市																																								
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯の経済的負担を軽減するとともに、こどもたちの学力や学習意欲、個性や才能を伸ばす機会を提供するため、学校外教育にかかる費用を助成（大阪市）</li> <li>学びや経験の機会格差、社会とのつながりのなさによる孤立などの課題解決を目指し、経済的に困難のある世帯の子ども・若者を対象に、塾や習い事、体験活動、保育サービスなどに利用できるクーポンを提供（尼崎市）</li> </ul>																																								
主な取組内容等	【取組内容】 (大阪市)																																								
	対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪市内に居住している中学生を養育している方</li> <li>所得金額が、市が定める所得制限限度額の所得制限限度額未満であること</li> </ul>																																							
	助成金額	上限 10,000 円 (月額)																																							
	交付実績 (R2.1 時点)	17,990 名																																							
	参画事業者 (R2.1 時点)	2,806 教室・事業所																																							
	実施主体	大阪市																																							
	業務運営事業者	大阪市塾代助成事業凸版・CFC 共同事業体																																							
	(尼崎市)																																								
	対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>申込時点で尼崎市内に居住している 0~20 歳</li> <li>大学、大学院、短期大学、高等専門学校 (4・5 年生) に在籍していない者</li> <li>本人 (対象者が扶養されている場合、その保護者) が生活保護受給者であるまたは一定の所得要件 (年間所得基準額を下回る) を満たす者</li> </ul>																																							
	助成金額	月額 12,000 円 ~ 24,000 円分のクーポンを配布																																							
実施主体	一般社団法人 Collective for Children																																								
【交付実績】																																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>チラシの市内全戸配布を中心に、市役所や地域の公民館など市内全域の公的機関・医療福祉機関等での案内設置等にて募集</li> </ul>																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象年齢</th> <th>未就学児</th> <th>小学生低学年</th> <th>小学生高学年</th> <th>中学生</th> <th>高校生</th> <th>卒業生・社会人</th> <th>全体平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用先数 (件)</td> <td>139</td> <td>303</td> <td>303</td> <td>260</td> <td>206</td> <td>96</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>利用率 (%)</td> <td>33.8</td> <td>70.7</td> <td>62.4</td> <td>88.6</td> <td>67.3</td> <td>41.4</td> <td>62.6</td> </tr> <tr> <td>利用先数 (件)</td> <td>157</td> <td>349</td> <td>349</td> <td>303</td> <td>245</td> <td>110</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>利用率 (%)</td> <td>58.8</td> <td>75.4</td> <td>79.6</td> <td>90.0</td> <td>45.8</td> <td>0.0</td> <td>81.6</td> </tr> </tbody> </table>		対象年齢	未就学児	小学生低学年	小学生高学年	中学生	高校生	卒業生・社会人	全体平均	利用先数 (件)	139	303	303	260	206	96	—	利用率 (%)	33.8	70.7	62.4	88.6	67.3	41.4	62.6	利用先数 (件)	157	349	349	303	245	110	—	利用率 (%)	58.8	75.4	79.6	90.0	45.8	0.0	81.6
対象年齢	未就学児	小学生低学年	小学生高学年	中学生	高校生	卒業生・社会人	全体平均																																		
利用先数 (件)	139	303	303	260	206	96	—																																		
利用率 (%)	33.8	70.7	62.4	88.6	67.3	41.4	62.6																																		
利用先数 (件)	157	349	349	303	245	110	—																																		
利用率 (%)	58.8	75.4	79.6	90.0	45.8	0.0	81.6																																		
【利用実績】																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象年齢</th> <th>未就学児</th> <th>小学生低学年</th> <th>小学生高学年</th> <th>中学生</th> <th>高校生</th> <th>卒業生・社会人</th> <th>全体平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用先数 (件)</td> <td>139</td> <td>303</td> <td>303</td> <td>260</td> <td>206</td> <td>96</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>利用率 (%)</td> <td>33.8</td> <td>70.7</td> <td>62.4</td> <td>88.6</td> <td>67.3</td> <td>41.4</td> <td>62.6</td> </tr> <tr> <td>利用先数 (件)</td> <td>157</td> <td>349</td> <td>349</td> <td>303</td> <td>245</td> <td>110</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>利用率 (%)</td> <td>58.8</td> <td>75.4</td> <td>79.6</td> <td>90.0</td> <td>45.8</td> <td>0.0</td> <td>81.6</td> </tr> </tbody> </table>		対象年齢	未就学児	小学生低学年	小学生高学年	中学生	高校生	卒業生・社会人	全体平均	利用先数 (件)	139	303	303	260	206	96	—	利用率 (%)	33.8	70.7	62.4	88.6	67.3	41.4	62.6	利用先数 (件)	157	349	349	303	245	110	—	利用率 (%)	58.8	75.4	79.6	90.0	45.8	0.0	81.6
対象年齢	未就学児	小学生低学年	小学生高学年	中学生	高校生	卒業生・社会人	全体平均																																		
利用先数 (件)	139	303	303	260	206	96	—																																		
利用率 (%)	33.8	70.7	62.4	88.6	67.3	41.4	62.6																																		
利用先数 (件)	157	349	349	303	245	110	—																																		
利用率 (%)	58.8	75.4	79.6	90.0	45.8	0.0	81.6																																		
<p>出典：大阪市 HP <a href="https://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/0000212697.html">https://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/0000212697.html</a>          公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン「2018 年事業計画書」          Collective for Children HP <a href="https://cforc.jp/">https://cforc.jp/</a></p>																																									

## 4. 参考事例

にぎわい

### (1) 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくり

(新潟県見附市、兵庫県姫路市、アメリカ・ニューヨーク、ポートランド他)

所在地	新潟県見附市、兵庫県姫路市、アメリカ・ニューヨーク、ポートランド		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>車中心ではなく、人中心の歩きたくなるようなまちづくりを推進</li> </ul>		
主な 取組 内容 等	<p>【新潟県見附市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル「Smart Wellness City」プロジェクトに参画</li> <li>「見附市歩こう条例」や「見附市健幸づくり推進計画」を策定する等、ソフト面を整える一方で、旧小学校の学区単位で9カ所の地域コミュニティの核となる、外出したくなる「ふるさとセンター」を整備。「ふるさとセンター」を中心として、「ウエルネスロード」と名付けた、車の往來を心配することなく、気持ちよく歩ける道路の整備を実施</li> <li>魅力ある施設を「見附」・「今町」・「見附駅周辺」の3地区に集約し、3地区と各地区を結ぶ公共交通網を整備する等、コンパクトシティの形成を推進。3地区内はコミュニティバスで循環し、3地区と各地区はデマンド型乗合タクシーまたはコミュニティワゴンで移動</li> <li>「住んでいるだけで健康になるまち」(スマートウエルネスシティ)と「住んでいるだけで健康になる住宅」(スマートウエルネス住宅)を融合させた、先進的な分譲地「ウエルネスタウンみつけ」を市が整備</li> </ul>		<p>歩行者と自転車を優先した道路空間</p>
			<p>見附市の公共交通車両</p>
	<p>「ウエルネスタウンみつけ」の様子 住宅の裏側には最大幅10mのプロムナード(緑化帯)を2箇所整備。子どもの遊び場のほか、人が集まりコミュニティが育まれる共有スペースとして活用</p>		<p>市内の至るところに健康器具や健康ベンチを設置</p>
	 		<p>「ウエルネスタウンみつけ」の様子 「ウエルネスタウンみつけ」の様子 「ウエルネスタウンみつけ」の様</p>
	<p>出典:            見附市 HP <a href="https://www.city.mitsuke.niigata.jp/17461.htm">https://www.city.mitsuke.niigata.jp/17461.htm</a>            見附市のまちづくり <a href="https://www.city.mitsuke.niigata.jp/secure/7860/mitsuke_city.pdf">https://www.city.mitsuke.niigata.jp/secure/7860/mitsuke_city.pdf</a>            見附市の概要 <a href="https://www.city.mitsuke.niigata.jp/secure/7860/R3gaiyou.pdf">https://www.city.mitsuke.niigata.jp/secure/7860/R3gaiyou.pdf</a>            日経 BP 新・公民連携最前線 <a href="https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/101800013/102800002/?ST=ppp-print">https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/101800013/102800002/?ST=ppp-print</a></p>		

## 4. 参考事例

<p>主な 取組 内容 等</p>	<p><b>【兵庫県姫路市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 車道中心だった駅前をトランジットモール化するとともに、ゆとりある歩行者空間に再整備</li> <li>• 車道中心だった駅前とそれに続く大手前通りの一部について、トランジットモール化するとともに、大手前通りの沿道事業者等が中心となり、くつろぎの場の提供やにぎわいづくりに向けた社会実験（「姫路大手前通り活用チャレンジ：ミチミチ」）を実施</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>トランジットモール化され、歩きやすくなった姫</p> </div> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回社会実験を継続的な道路活用につなげていくために、地元の事業者が中心となり、将来ビジョンを実行するためのストリートマネジメント組織「OMK（大手前みらい会議）」を設立</li> <li>• 「姫路大手前通り活用チャレンジ：ミチミチ」は2019年11月の一ヶ月間と、2020年12月から2021年12月にかけての約一年間実施</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">「姫路大手前通り活用チャレンジ：ミチミチ」の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 駅周辺の商業地 地価公示価格は120万円/m<sup>2</sup>（H30）から150万円/m<sup>2</sup>（H31）へアップ（変動率：25%上昇）</li> <li>• 国の制度としても道路活用を後押しする「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち制度）」が登場し、歩道内にオープンカフェを設置する等の規制緩和を受け、より日常的な賑わいの風景の創出を目指し、令和4年度からの事業者による道路占用開始に向けた検討が進められている</li> <li>• 2021年7月には、姫路市としてウォーカブルなまちの方向性を示した「ウォーカブル推進計画」が策定され、中心市街地において歩行者優先の居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指し、公共空間利活用の仕組みやリノベーションまちづくりなどのウォーカブルな環境づくりに資するさまざまな取り組みを進めていくことが謳われている</li> </ul> <p>出典：          国土交通省資料「ウォーカブルなまちづくり」 <a href="https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001326427.pdf">https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001326427.pdf</a>          国土交通省資料 <a href="https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001321569.pdf">https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001321569.pdf</a>          姫路市 HP 「姫路市ウォーカブル推進計画について」 <a href="https://www.city.himeji.lg.jp/shisei/0000017111.html">https://www.city.himeji.lg.jp/shisei/0000017111.html</a>          公共R不動産 HP <a href="https://www.realpublicestate.jp/post/michimichi/">https://www.realpublicestate.jp/post/michimichi/</a></p>

## 4. 参考事例

<p>主な 取組 内容 等</p>	<p>【アメリカ合衆国 ニューヨーク市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当時のブルームバーグ市長が掲げた長期計画「PlaNYC」(2007)において、市民の徒歩10分圏内のオープンスペースを充実させるとの方針のもと、市内でも比較的人口密度が高く、商業施設や飲食店が面し、公共交通の利便性が高いまちなかを中心に、車道や駐車帯などを歩行者空間(プラザ: Plaza)へ転換させる施策として、2008年から「Plaza Program」を開始</li> <li>• 市は、地域民間組織から広場化したい街路と①1日広場化、②暫定広場化、③恒久広場化についての申請を募集。広場化にあたっての、暫定整備(標識、簡易なファニーチャー、路面のマーキングや仕上げ等)と恒久整備(照明、植栽、本格整備等)の費用を行政が負担</li> <li>• 管理運営は、地域民間組織(エリマネ団体、大学、民間企業等)が行い、清掃や修繕、植栽、保険加入などが義務付けられるとともに、広場イベント等による収入を得られる。財源や運営能力の乏しい民間組織に対しては、職業訓練・人材派遣の専門性を有する非営利組織が①スポンサーやイベントマネジャーの紹介、②プロモーション、③ボランティアやメンテナンスへの人材派遣などの支援を実施</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>【整備前(2009年)】</p> <p>【整備後(2015年)】</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">ニューヨーク市タイムズ・スクエア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 半年間にわたる社会実験を経て、2010年以降ブロードウェイは恒久的に広場化された。タイムズ・スクエアの歩行者数は11%増加し、74%の市民がタイムズ・スクエアは劇的に改善されたと回答</li> <li>• その他、歩行負傷者数35%減・CO2 40%減</li> </ul> <p>【アメリカ合衆国 ポートランド市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポートランドでは、建物の1階部分(グランドレベル)のうち、歩道に面する壁面を透明にする規制が設けられている。リノベーションでは壁面の4割、新規開発では5割を透明としなければならない</li> <li>• 壁面を透明とするための設計と施工に対して、合わせて上限200万円程度、市から補助</li> <li>• 道路にも、まちの賑わいを創出するためのデザインをゾーンごとに導入</li> </ul> <p>[建物隣接ゾーン]: 店が自由に活用可能      [歩行ゾーン]: 中心に交通機能を据え、賑わいを創出      [ファニーッシュゾーン]: 道路構造物や路面電車の駅等を置き、空いている場合は店が活用可能</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>ポートランド市パール地区におけるデザイン</p> </div> </div>
-------------------------------	---

#### 4. 参考事例

	<p>出典： 国土交通省資料「ウォークラブルなまちづくり」 <a href="https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001326427.pdf">https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001326427.pdf</a> 国土交通省資料 <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001292410.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001292410.pdf</a></p>
--	---

#### (2) まちなかキッチンカー事業

所在地	大阪府吹田市
概要	• 吹田市とキッチンカーコーディネート事業者（株式会社 Mellow、株式会社シンクロ・フードくもビマル）が共同で公園や市営住宅等に出店し、需要や課題整理等行う社会実験

#### 4. 参考事例

**【目的】**

- 新型コロナウイルスの影響で大きく変化した生活様式に対応可能な住民サービスとしてショップ（店舗型）・モビリティ※を活用
- 市有地を活用し、コロナ禍での飲食関連事業者の事業活動を支援するとともに、市内の公共空間をローカル事業者が効率的に活用することで地域経済の振興を促す

**【活動内容】**

第1期出店場所一覧（R3.8～R3.11）

(株) Mellow	(株) モビマル
いずみの園公園	江坂公園
千里北公園	新佐竹台住宅
健都レールサイド公	

第2期出店場所一覧（R3.12～R4.3）

(株) Mellow	(株) モビマル
いずみの園公園	江坂公園
健都レールサイド公園	江の木公園
	紫金山公園

主な取組内容等



吹田市まちなかキッチンカー（社会実験）



吹田市 × Mellow

第2期吹田市まちなかキッチンカー社会実験のチラシ



江坂公園の様子（モビマル）



(株) Mellow が描く事業スキーム図

※次世代移動型店舗のこと。車両の配車やマネジメントをデジタル上で運用管理し、アプリケーションを使って情報発信と店舗情報を提供。店舗の業態は、フードトラックや移動型アパレル店などの小売店、サービス提供が中心。将来的には、オンデマンドでサービス提供を行い、事前予約決済などの機能も実

#### (3) 公民連携による民間活力の活用

所在地	大阪府大東市北条地域
概要	民間活力を活用した市営住宅の建て替え、まちづくりの推進

## 4. 参考事例

- 北条地域は、深刻な高齢化の進行や流出超過により、現状のままではコミュニティの維持・継続が困難と予想されるだけでなく、市営住宅等、更新時期を迎える公共施設が数多く存在していることから、人口の流入・定住化に向けた新たな機能導入が求められていた
- こうした背景を基に、平成27年に「北条地域まちづくり構想」が、平成29年には「大東市営飯盛園第二住宅建替等事業実施方針」が策定され、北条まちづくりプロジェクト第Ⅰ期事業がスタート
- この北条まちづくりプロジェクトは、大東市が出資する民間企業である大東公民連携まちづくり事業株式会社と大東市が共に、地域に点在する公的資産を活用し、一体的・段階的にエリア開発を推進
- 令和3年3月に、北条まちづくりプロジェクト第Ⅰ期事業である、全国初となる官民連携（PPP手法）による市営住宅の建替え（借上げ公営住宅・民間賃貸住宅の住宅棟、生活利便施設等の整備）が竣工



鎌池公園（もりねき広場）の様子



商業棟の様子

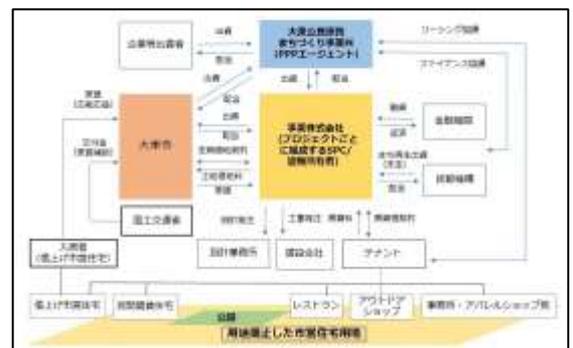


もりねき住宅の様子



主な  
取組  
内容  
等

- PPP エージェントである大東公民連携まちづくり事業株式会社（コーミン）が市のビジョンに基づき、テナントリーシングを行い、特定目的会社である東心株式会社が、大東市とコーミンからの出資及び、金融機関からの融資で事業を実施。建物は東心株式会社が所有し、大東市はその民間賃貸住宅を市営住宅として借り上げる他、公園・河川・周辺道路の整備を実施
- 現在、北条まちづくりプロジェクト第Ⅰ期事業との連携を図りながら、更なる民間活力の導入や周辺の公共施設再編に向けた北条まちづくりプロジェクト次期構想を策定中



北条まちづくりプロジェクト第Ⅰ期事業スキーム図



#### 4. 参考事例

	とどろみの森学園
--	----------

##### (5) 農家の指導を受けることができる農業体験農園

所在地	東京都練馬区
概要	・ 都市住民が農家の指導の下で野菜づくりができる農業体験農園

## 4. 参考事例

主な 取組 内容 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市の農地を維持し、都市住民にとっても手軽に失敗なく農業体験ができる新しい市民農園の形態として、都内の農家が区役所を動かし、平成8年に農業体験農園を開設</li> <li>平成22年には普及啓発を行う目的で全国農業体験農園協会を設立し、活動の幅を全国に展開</li> <li>生産緑地法改正をきっかけに新たな農業の形態として農業体験農園を開設</li> <li>農業体験農園では、利用者は、農園の開設者である農家の指導の下で野菜づくりを行うため、初心者でも安心して高品質の野菜づくりが可能</li> <li>減農薬減化学肥料農法を主体とし、地域に受け継がれてきた品種と農法による栽培指導がメイン</li> <li>農業体験農園は、都市住民の農業への理解の醸成とともに、農家の農業経営の安定化（農家にとっては市場価格などに左右されない安定した収入が見込まれる）に寄与</li> <li>園主は作付計画の作成と指導を行い、農作業は利用者が行うため、農家の負担が軽減</li> <li>消費者からの声を直接聞くことができるため、農家のモチベーション維持に貢献</li> <li>農業体験農園では、園主の指導のもと同じ作業を体験し、さまざまな園主主催のイベント（収穫祭、料理教室、視察研修など）に参加することにより、利用者間の交流の輪が広がり、ひいてはコミュニティを形成</li> <li>農家が経営者として農園の管理運営を行い、行政は施設整備費・管理運営費の助成と募集の援助を行う役割分担があることから、自治体開設型の農園に比べて、管理運営面の行政側の負担は軽減</li> </ul>												
	<p>【農業体験農園の概要】</p> <table border="1"> <tr> <td>区画面積</td> <td>30平方メートル（一部農業体験農園では果樹栽培の体験もあるため、野菜区画は21平方メートル）</td> </tr> <tr> <td>利用期間</td> <td>令和4年3月中旬から令和5年1月末まで(更新は園主との相談)</td> </tr> <tr> <td>利用料金</td> <td>38,000円（入園料・収穫物代金） ※練馬区に住民票がない方は50,000円</td> </tr> <tr> <td>主な施設</td> <td>柵、簡易トイレ、水道、簡易な休憩施設、農具庫、看板、掲示板</td> </tr> <tr> <td>車での来園</td> <td>禁止</td> </tr> <tr> <td>利用対象</td> <td>20歳以上の方（家族での参加も可）</td> </tr> </table>	区画面積	30平方メートル（一部農業体験農園では果樹栽培の体験もあるため、野菜区画は21平方メートル）	利用期間	令和4年3月中旬から令和5年1月末まで(更新は園主との相談)	利用料金	38,000円（入園料・収穫物代金） ※練馬区に住民票がない方は50,000円	主な施設	柵、簡易トイレ、水道、簡易な休憩施設、農具庫、看板、掲示板	車での来園	禁止	利用対象	20歳以上の方（家族での参加も可）
	区画面積	30平方メートル（一部農業体験農園では果樹栽培の体験もあるため、野菜区画は21平方メートル）											
	利用期間	令和4年3月中旬から令和5年1月末まで(更新は園主との相談)											
	利用料金	38,000円（入園料・収穫物代金） ※練馬区に住民票がない方は50,000円											
	主な施設	柵、簡易トイレ、水道、簡易な休憩施設、農具庫、看板、掲示板											
	車での来園	禁止											
	利用対象	20歳以上の方（家族での参加も可）											
		<p>写真左 農家からの指導を受ける様子</p>											
		<p>写真右 農家と農園利用者によるイベントの様子</p>											
<p>出典： 農水省資料 「都市農業の優良事例集」 <a href="https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/t_gaiyo-12.pdf">https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/t_gaiyo-12.pdf</a> 練馬区 HP 「農業体験農園」 <a href="https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/hureai/taikennoen.html">https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/hureai/taikennoen.html</a> 田柄すずしろ農園 HP <a href="http://www.roy.hi-ho.ne.jp/suzushiro-nouen/photosapril.html">http://www.roy.hi-ho.ne.jp/suzushiro-nouen/photosapril.html</a> 農業体験農園「百幻の里」HP <a href="https://www.heartstrings.jp/hyakume/info4.htm">https://www.heartstrings.jp/hyakume/info4.htm</a></p>													

### (6) 農業の担い手育成

所在地	東京都練馬区
-----	--------

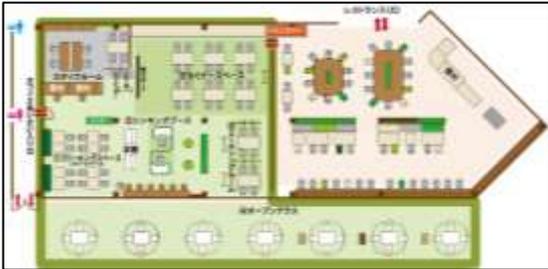
#### 4. 参考事例

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>区民に農業の魅力と役割を伝え、農に関心を持つ区民の中から都市農業に関わる人材を育て、支え手を必要とする農家とのマッチングを実現</li> </ul>				
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 27 年 3 月に練馬区が農の学校を開校（所管：都市農業担当部 都市農業課）</li> <li>運営は民間事業者へ委託し、講師は区内農業者や学識経験者が担当</li> <li>以下の 4 つのコースを設定しており、初級コース以上のコースを修了すると、「ねりま農サポーター」として、区内農家の支え手としての活動や、区内農業イベントの手伝いが可能となる</li> </ul>				
	コース名	農とのふれあい・体験コース ～土にふれる喜びを～	初級コース ～種まきから収穫まで～	中級コース ～農作業を支援できる人材の育成～	上級コース ～知識と技術のさらなる向上を目指して～
	内容	野菜の作付けや収穫体験を通して、農とふれあう楽しさを学ぶ 本コースは前期（春夏期）と後期（秋冬期）に実施	種まきから収穫までに必要な作業、出荷作業、都市農業・農地に関する基礎知識等を講義と実習で学ぶ 本コースは 1 年間かけて実施	区内で生産される代表的な農作物について、作付けから収穫、収穫後の畑の片付けまでの間の主要な作業を実技中心に学ぶ 区内農家の畑で農家実習も実施 本コースは 1 年間かけて実施	中級コースの学習内容を踏まえ、春夏野菜の作付けから秋冬野菜の収穫まで、1 年間を通じた農作業を実習区画で実践し、実技の定着を図る講習を中心に実施 区内の果樹および花き農家の畑で農家実習も実施 本コースは 1 年間をかけて実施
	対象	15 歳以下の子を含む区内在住の 2～4 名のグループ ※未就学児 1 名につき保護者 1 名の参加が必要	区内在住の 18 歳以上	初級コースを修了し、ねりま農サポーターに認定された方	中級コースを修了し、ねりま農サポーターに認定された方
	日程	各期の休日 4 日間程度	休日 20 日間程度	休日 20 日間程度	休日 22 日間程度
	その他	本コースはねりま農サポーターの認定外	ねりま農サポーターの認定には 8 割以上の出席が要件	ねりま農サポーターの認定には 8 割以上の出席が要件	ねりま農サポーターの認定には 8 割以上の出席が要件
				<p>写真左 敷地面積約 3,700 m<sup>2</sup> の中に研修用圃場・ビニールハウスを有する</p> <p>写真右 実習の様子</p>	
<p>出典： 練馬区 HP 「練馬区農の学校」 <a href="https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/hureai/nounogakkou.html">https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/hureai/nounogakkou.html</a> 練馬区農の学校 HP <a href="https://nerima-nou.info/">https://nerima-nou.info/</a></p>					

#### (7) 農産品直売所を軸とした交流拠点となり得る複合施設(みはらしの丘 あいさい広場)

所在地	徳島県小松島市立江町炭屋ヶ谷 47-3
-----	---------------------

#### 4. 参考事例

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物直売所・レストラン・コワーキングスペース等が一体となった複合施設</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>JA 東とくしまが運営する、産直市を中心とした施設</li> <li>産直市の他、レストラン・カフェ・バー・コワーキングスペース等により構成</li> <li>産直市は農作物だけでなく、園芸品や精肉、鮮魚、総菜コーナーも併設</li> <li>あいさい広場の隣接地には「あいさい農園」や「アグリカルチャーセンター」を併設</li> <li>「あいさい農園」では、プロから学ぶ家庭菜園講座など初心者から就農を目指す方まで幅広いニーズを満たす JA ならではのカリキュラムの他、同じ地域に住む農家と生活者が共にそれぞれの立場から農業に取り組む新しい形の農業システム「CSA (地域支援型農業)」プログラムを実践。その他、地域の食や農、農村の暮らしを体験するグリーンツーリズム、農業体験イベントを開催</li> <li>「アグリカルチャーセンター」では、キッチンスタジオを活用し、畑で育った野菜がどのようにお菓子やジュースに加工されていくのかを体験を通して学ぶ子ども向けプログラム「アグリキッズスクールなっ! とくしまスクール」等を開催。その他、多様な料理教室やキッチンスタジオをレンタルキッチンとして貸し出し、地域の特産品を活用した6次産業化を支援する等、幅広い取り組みを展開</li> <li>食農ビジネスを立ち上げたい人が産直市やキッチン設備が併設された施設を活用したり、出荷で訪れた生産者が打ち合わせやオンライン商談をしたり、買い物に訪れたついでにリモートワークや読書をするためのスペースとして、コワーキングスペース「オフィスあいさい」を整備</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="331 943 884 1350">  <p>あいさい広場 フロアマップ</p> </div> <div data-bbox="895 943 1453 1323">  <p>産直市の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="336 1384 708 1648">  <p>写真左 「なっ! とくしまスクール」の様子</p> </div> <div data-bbox="719 1384 1209 1648">  <p>写真右 「カルチャーセンター」でのクッキング教室の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="336 1659 884 1928">  <p>「オフィスあいさい」平面図</p> </div> <div data-bbox="895 1659 1465 1861">  <p>「オフィスあいさい」コワーキングスペース</p> </div> </div> <p>出典：          みはらしの丘 あいさい広場 HP <a href="https://www.ja-higashitks.com/aisai/">https://www.ja-higashitks.com/aisai/</a>          朝日新聞 HP <a href="https://www.asahi.com/articles/ASP2V6S39P2QPTLC016.html">https://www.asahi.com/articles/ASP2V6S39P2QPTLC016.html</a></p>

#### (8) 農地を活用した文化芸術活動に関する取り組み

#### 4. 参考事例

所在地	新潟県越後妻有（えちごつまり）地域（十日町市、津南町）	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層の流出とともに、空き家や空き店舗の増加、耕作放棄地の拡大といった地域の課題に対し、現代アートを媒介に越後妻有の潜在的魅力を再発見し、自然や文化、ここで暮らす住民の営み全てを一つの美術館として再構成して発信</li> </ul>	
主な 取組 内容 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>十日町市・津南町の越後妻有地域は、過疎と高齢化が進む日本有数の豪雪地であり、2000年より3年に1度開催される現代アートの国際芸術展「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を核とする地域づくりを進めてきた（主催：大地の芸術祭実行委員会）</li> <li>アートによる地域づくりの先進事例として国内外から注目</li> <li>「大地の芸術祭」が生まれた当時、現代アートそのものに馴染みがないことから批判が噴出し、アートを中心とする地域活性化を目指すことに住民や6市町村議会のほとんどが反対</li> <li>第1回は開催予定を一年遅らせ、住民への説明会や各種会議等を合計2,000回以上実施</li> <li>当初は作品制作に協力する住民は数えるほどしかいなかったものの、ボランティアサポーター「こへび隊」が献身的に作品制作や作品説明をする様子を見ているうちに協力する住民が次第に増加</li> <li>住民と協働で制作される芸術作品、作品説明や来訪者へのおもてなし、さらにはパフォーマンスへの参加など、住民との関わりこそがこの芸術祭の最大の特徴</li> <li>広大な越後妻有地域（約762km<sup>2</sup>）を6つのエリアに分け、宿泊施設を兼ね備えた作品に泊まるツアー等も実施</li> <li>通年での展示作品・拠点施設もあり、いつでも越後妻有地域を楽しめるよう整備</li> </ul>	
		
	地元住民のもてなしと地元食材による農家レストラン	地元住民も参加した作品
		
田んぼが広がる中に創られた作品	棚田を活用した作品	
<p>出典：          大地の芸術祭 HP <a href="https://www.echigo-tsumari.jp/">https://www.echigo-tsumari.jp/</a>          国交省資料 <a href="https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/pdf/Part30_H27/H27_taisyou_03.pdf">https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/pdf/Part30_H27/H27_taisyou_03.pdf</a></p>		

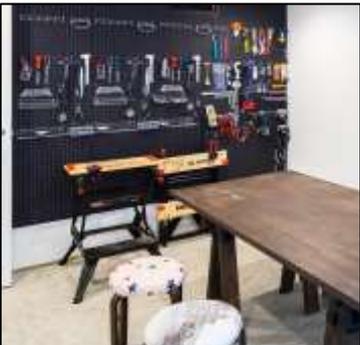
## 4. 参考事例

### (9) 園芸福祉農園（セラピー農園）

所在地	大阪府堺市南区釜室
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民農園を中心としたフォレストガーデン内に園芸福祉農園（セラピー農園）を整備</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府では、平成12年度から大阪府セラピー農園普及研究会が発足され、園芸福祉農園（セラピー農園）※の調査研究を実施</li> <li>平成14年度に、堺市立フォレストガーデン（堺市南区釜室）にある市民菜園（垣外谷ゾーン）内に、モデル農園としての園芸福祉農園區画を開設</li> <li>本農園は園芸福祉農園としての整備や運営をモデル的に実践する施設として活用</li> <li>堺市立フォレストガーデンは、市民が身近な自然に親しみ、農林業体験を通して健康的で活動的なレクリエーションを行う場を提供することで、自然緑地の保全と活用をはかり、地域の振興に役立つことを目的としている。また、「自然や農業と私たちとの暮らしとのかかわり」について市民とともに考え、育んでいくことを目的とし、市民菜園と園芸福祉農園の他、梅林や竹林に加え、広場や木製遊具等も整備</li> </ul> <p>※園芸福祉農園とは</p> <p>農園芸作業の持つリハビリテーション、授産、交流等の福祉的効用を踏まえ、地域の作業所、授産施設や関係者と連携を図りながら、障害者等が農園芸作業や収穫の喜び、収穫物の消費・販売・加工活動等を通じて、健康の維持・増進、いきがいづくり等QOL（生活の質）の向上や仲間づくりが行える、いわば、屋外でのデイ・ケア空間として整備・運営</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="308 981 874 1377">  <p>園芸福祉農園での作業風景</p> </div> <div data-bbox="882 981 1457 1377">  <p>市民菜園の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="308 1422 874 1818">  <p>フォレストガーデン内の木製遊具</p> </div> <div data-bbox="882 1422 1457 1818">  <p>フォレストガーデン内の池の様子</p> </div> </div> <p>出典：          堺市 HP 「フォレストガーデンについて」  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/nosui/shisetsu/kashinoen/forestgarden/forestgarden.html">https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/nosui/shisetsu/kashinoen/forestgarden/forestgarden.html</a>          堺市 HP 「園芸福祉農園」  <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/nosui/shisetsu/kashinoen/forestgarden/engei.html">https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/nosui/shisetsu/kashinoen/forestgarden/engei.html</a>          堺フィルムオフィス HP 「フォレストガーデン」 <a href="https://sakai-film.jp/location/9/">https://sakai-film.jp/location/9/</a></p>

## 4. 参考事例

### (10) D I Yカフェ（友安製作所 Cafe&Bar 阿倍野店）

所在地	大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 2-3-8	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築界の巨匠・村野藤吾が、自身の事務所として約50年前に設計し実際に使用していた歴史的建造物を、インテリアショップとDIYスペースを併設したカフェ&amp;バーにリノベーションして活用</li> </ul>	
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテリア・エクステリア商品の販売を手掛ける株式会社友安製作所が運営するカフェ</li> <li>東京、大阪、福岡でカフェを運営しており、大阪店は歴史的建造物、村野建築のこだわりを残しながら、友安製作所がデザインプロデュースし、店舗兼ショールームへとリノベーションを実施</li> <li>店舗には村野事務所で使用されていた貴重な品を展示し、また、村野氏の建築に関する書籍を取り揃え、名建築の世界の一端に触れることが出来る</li> </ul>	
		
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>家具や照明等の内装インテリアも楽しめるのが特徴。壁には友安製作所で販売しているファブリックボードやインテリア雑貨が飾られており、輸入壁紙やタイルシールでDIYを施している</li> <li>カフェ・バーでは、昼間から夜遅くまで楽しめるメニューを用意</li> <li>インテリア・DIY商品の展示販売を行うショールーム兼ショップでは、友安製作所が運営するオンラインショップで人気の商品（カーテン・カーテンレール・壁紙等）を、実際に見て触れて、その場で購入することも可能</li> <li>店内にはワークショップスペースを併設し、壁紙の貼り方講座や雑貨作りなどの講座を定期的に行う。ワークショップを通して、ものづくりの楽しさや手軽さを知る機会を提供</li> <li>ワークショップスペースはレンタルスペースとしての利用も可能で、個人で開催するワークショップ会場としてや、各種ミーティングや撮影・作品作りの工房としても使用可能（※オプション料金を支払えば備え付け工具の使用も可能）</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">カフェスペースの様子</p>
		

ワークショップスペースの様子

過去のワークショップの様子

#### 4. 参考事例

	<p>出典： 株式会社友安製作所 Cafe <a href="https://tomoyasu.co.jp/cafe/">https://tomoyasu.co.jp/cafe/</a></p>
--	---

##### (11) 淀川河川敷を活用した取り組み（淀川舟運・イベント等）

所在地	大阪府大阪市、大阪府枚方市、京都府八幡市、京都府京都市
概要	• 大阪の八軒家浜船着場と枚方緊急用船着場を結ぶ定期運航船が就航し、毎年3月から4月にかけて背割堤船着場を活用した花見船が運航される他、河川敷におけるイベント等が活発化

## 4. 参考事例

- 淀川の舟運による地域活性化は、近年盛り上がりを見せており、2017年には、大阪の八軒家浜船着場と枚方緊急用船着場を結ぶ定期運航船が就航し、京都府八幡市にある淀川河川公園背割堤地区では、毎年3月から4月にかけて背割堤船着場を活用した花見船が運航され、多くの観光客がお花見クルーズを楽しんでいる
- 新たな舟運需要を発掘するために、京都市伏見区の伏見港公園へのクルーズツアーや、毛馬閘門の夜間航行等、様々な方法での舟運の活用を検討中



大川を航行する定期運航船



夜間航行の社会実験時の様子

主な  
取組  
内容  
等

- 淀川河川公園西中島地区およびその周辺で、淀川の新なる魅力づくりに官民連携でチャレンジすべく、2015年から開催されている淀川アーバンフロント（主催：淀川河川公園管理センター）
- キャンプ・アクティビティ・ナイト・バーベキュー・マーケット・ヘルスの6つのプログラムから構成されており、2021年は10月16日・17日・23日・24日・30日・31日の6日間開催
- 上記期間以外にも、BBQ 機材レンタル、キッチンカー・クリスマスマーケット・マルシェ・アウトドア用品販売等の取り組みを実施



グランピングの様子(キャンププログラム)



カヌー様子(アクティビティプログラム)



SUPの様子(アクティビティプログラム)



淀川アーバンポート～ナイトクルーズの様子  
(ナイトプログラム)

## 4. 参考事例

### (12) オープンファクトリー

所在地	大阪府八尾市他
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民にもものづくりの良さを分かってもらうために、ワークショップ型ものづくり体験施設の運営の他、現場を一般開放し、ものづくりを体験、体感してもらうための一連の取り組みを実施</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>近鉄八尾駅前の西武百貨店(八尾店)閉店後の LINOAS(リノアス)8F ホールのスペースをイノベーション推進拠点にしようと、地元経営者有志(中小企業を中心とする 35 社)が長期的な地域振興の観点から、企業と市民が積極的にふれあえる交流施設の開設構想を立案</li> <li>「地域貢献」という大義のもと、八尾の中小企業が叡智を結集して「魅せる場」を創る「みせるばやお」がスタート</li> <li>「ものづくり体験」・「ものづくりエンターテイメント」をテーマに、子どもを中心とした来場者が楽しみながら体験することが可能なワークショップ型ものづくり体験施設として、地元の中小企業が連携して運営母体を設立し、自主運営。八尾市が賃料負担や情報発信で側面支援</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">みせるばやおの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020 年からは、「こうばはまちのエンターテイメント」を合言葉に、ものづくりの現場を一般開放し、人々の生活を支え、世界を魅了するものづくりを体験、体感してもらうことを目的に、オープンファクトリーである「FactorISM」※を開催(2021 年は東大阪市・堺市・門真市においても開催)             <ul style="list-style-type: none"> <li>※「Factory：産地 Tourism を通じて、ISM：産地やこうば(Factory) の想い、Tourism：主義 (ISM) を伝える」を組み合わせた造語</li> </ul> </li> <li>2025 年の大阪・関西万博の開催を見据え、八尾市だけでなく、堺市、門真市などのものづくり企業が集積するまち全体が大きなバビリオンとなっている</li> <li>「FactorISM」を運営するメンバーは、民間企業、市役所職員、大学生などがボランティアで携わっている。ボランティアで参加した大学生の中から、「FactorISM」へ参加したものづくり企業に興味を持ち、就職に向けてインターンシップに参加しているという事例も出る等、新たな循環が生まれている</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">FactorISM の様子</p>

出典：  
 みせるばやお HP <https://miseruba-yao.jp/>  
 FactorISM HP <https://factorism.jp/>

#### 4. 参考事例

グランピングの様子(キャンププログラム)

## 4. 参考事例

### (13) 移住者誘致に向けた取り組み

所在地	徳島県神山町	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「創造的過疎」をキーワードに、過疎地の人口減少は不可避と捉え、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構造・人口構成の変化を促進</li> </ul>	
主な 取組 内容 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカから日本に贈られた友好親善の「青い目の人形（アリス人形）」を、人形の故郷のペンシルバニア州ウィルキンスバーグに里帰りさせるため、「アリス里帰り推進委員会」を民間で平成3（1991）年に結成したことがきっかけ</li> <li>同委員会メンバーを中心に「神山町国際交流協会」を平成4（1992）年に設立、平成11（1999）年より「神山アーティスト・イン・レジデンス」が始動、町の外部から定期的にアーティストを受入</li> <li>平成16（2004）年に同国際交流協会が発展的解消し、NPO 法人「グリーンバレー」を設立、平成19（2007）年に徳島県の委託により、神山町移住交流支援センターの受託運営を開始、サテライトオフィス誘致をはじめとした移住支援が始まる</li> <li>並行して、国の補助金を活用し超高速ブロードバンド環境を町全体に整備（平成17（2005）年には光ファイバー網が整備完了）</li> <li>平成20（2008）年より、神山町に必要な人材を移住者として選定して逆指名する「ワーク・イン・レジデンス」を開始。「グリーンバレー」が町の空き家を借上げ、借上げた空き家情報をホームページ「イン神山」で発信</li> <li>平成22（2010）年、神山町のサテライトオフィス第1号として Sansan が「神山ラボ」開所</li> </ul>	 <p>「神山アーティスト・イン・レジデンス」の作品「隠された図書館」(出月秀明氏製作)</p>  <p>「ワーク・イン・レジデンス」により誘致したビストロ(築150年の酒屋を改修)</p>
	   <p>企業のサテライトオフィスの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同年、若年の移住者を呼び込むため、「求職者支援訓練（厚生労働省）」を活用し、半年間の滞在型人材研修「神山塾」を開始、卒業生の約半数は神山町へ移住。また、誘致したサテライトオフィスへ就職する者を輩出</li> <li>商店街の空き店舗へサテライトオフィスや飲食店等を誘致し、新しい商店街が形成。サテライトオフィス誘致の進展により、若年就業者や県内外からの来町者が増加し、レストランや宿泊施設等のサービス産業が活性化。また、そこで消費される食材（有機農産物）の生産を喚起することで経済効果が農業まで波及（「地産地食」をキーワードにした「フード・ハブ・プロジェクト」の実施等）</li> </ul> <p>出典：            総務省資料「神山プロジェクトのポイント」 <a href="https://www.soumu.go.jp/main_content/000675516.pdf">https://www.soumu.go.jp/main_content/000675516.pdf</a>            関西広域連合 HP「神山プロジェクト」 <a href="https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/7/1490151050.pdf">https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/7/1490151050.pdf</a>            事業構想 HP「創造的過疎」神山町の今 サービス・農業で続々新ビジネス」  <a href="https://www.projectdesign.jp/201805/local-design-2018/004879.php">https://www.projectdesign.jp/201805/local-design-2018/004879.php</a></p>	

#### 4. 参考事例

--	--

## 4. 参考事例

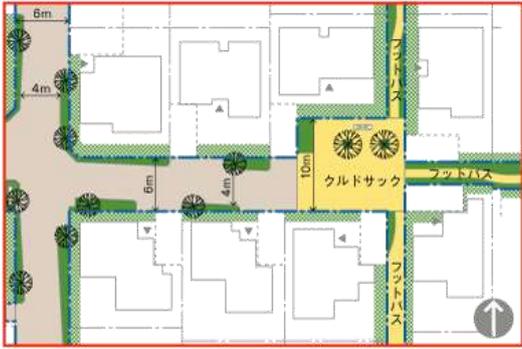
その他

### (1) SDGsを活用したまちづくり

所在地	兵庫県明石市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定中の第6次長期総合計画を「(仮称)あかしSDGs推進計画」とする等、市ぐるみで一貫となってSDGsに関する取り組みを推進</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、優れた取組を行う自治体として、令和2(2020)年7月17日に国(内閣府)から県内初となる「SDGs未来都市」に選定</li> <li>SDGs未来都市に選定された都市は、SDGs推進の取組を具体化した3年間の「SDGs未来都市計画」を策定することとされており、令和2年8月に「明石市SDGs未来都市計画 SDGs未来安心都市・明石 ~いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで~」を策定(計画期間:2020年度から2022年度)</li> <li>令和3年1月、明石市は、地方自治体が国や企業、団体、学校・研究機関、住民などと連携して、地方からSDGsを推進し、地域の課題解決と地方創生を目指していくという考え・決意を示す「SDGs日本モデル」宣言に賛同</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="319 784 813 1220"> <p>「SDGs未来安心都市・明石」の目指す</p> </div> <div data-bbox="829 784 1468 1276"> <p>あかし版こども食堂</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">明石市におけるSDGsに関連する主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コープこうべと「SDGsの推進に関する包括連携協定」を締結し、「おもつ定期便」を実施。子育て経験のある見守り支援員(配達員)が、0歳児の赤ちゃんがいる家庭(生まれて3か月から1歳になるまで毎月)に月齢ごとの子育て情報紙と一緒に赤ちゃん用品(3000円相当)を直接無料でお届け。経済的負担の軽減や、見守りによる子育てへの不安の解消だけでなく、必要に応じて関連部署と連携し、支援を実施</li> <li>その他、障害の有無及び程度、年齢、性別等にかかわらず誰もが安心して暮らせる「やさしいまちづくり」の理念を、今後の包括的指針とするために、「(仮称)あかしインクルーシブ条例」の制定を検討中</li> <li>令和4年度予算において、1団体100万円を上限に、計17団体を対象に、SDGs推進に関する助成金制度の創設も検討中</li> </ul> <p>出典:      明石市 HP      「SDGs未来都市」<a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs_torikumi/sdgs_miraitoshi.html">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs_torikumi/sdgs_miraitoshi.html</a>      「SDGs日本モデル」宣言 <a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs_torikumi/sdgs_model_sengen/sdgs_model_sengen.html">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs_torikumi/sdgs_model_sengen/sdgs_model_sengen.html</a>      「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」  <a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/seisaku_shitsu/shise/gyose/kekaku/sogokekaku/index-6sdgs.html">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/seisaku_shitsu/shise/gyose/kekaku/sogokekaku/index-6sdgs.html</a>      「明石市撮れたて情報」<a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/kouhou_ka/toretate/20201001.html">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/kouhou_ka/toretate/20201001.html</a>      「(仮称)あかしインクルーシブ条例の制定に向けて」  <a href="https://www.city.akashi.lg.jp/fukushi/fu_soumu_ka/sabetsu/20180928_inkuru-sibu.html#contento_top_inkurusibunatorikumi">https://www.city.akashi.lg.jp/fukushi/fu_soumu_ka/sabetsu/20180928_inkuru-sibu.html#contento_top_inkurusibunatorikumi</a>      「記者会見 2022年(令和3年)1月27日」<a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/kouhou_ka/shise/shicho/kaiken/20220127.html">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/kouhou_ka/shise/shicho/kaiken/20220127.html</a>      明石市資料 <a href="https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs/documents/sdgsparf_1.pdf">https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs/documents/sdgsparf_1.pdf</a></p>

## 4. 参考事例

### (2) 規制による住宅開発の導入

所在地	大阪府枚方市北山一丁目の一部
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地区計画・建築協定による良好な住環境の創出</li> </ul>
主な取組内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人と人、人と自然の交流をテーマとした住宅地。地区計画（枚方長尾地区地区計画）において建築物の敷地面積の最低限度が定められている（150㎡）。また、建築協定において区画変更（宅地の細分化）が禁じられている他、建築物の用途は、「一戸建専用住宅」と指定</li> <li>• 計画地は、東側が歩行者専用道路、南側が公道（幅員10m）、西側が公園、北側が都市計画道路（12m）に接している</li> <li>• 街区は、6～10戸をコミュニティ単位とした、クラスター形式の住戸配置により形成。ボンエルフ型のループ状骨格道路に、クルドサックの回転広場を核とした住戸クラスターにより構成</li> <li>• 植栽計画は、高木植栽の多用と、道路内植栽帯と専有庭との一体化により、広がりとボリューム感のある緑化を図っている。みち広場にはテーマを持たせた植栽を行ない、クラスター単位の個性化と、交流の楽しさを演出</li> <li>• 街区内道路は幅員6m（一部4m）、クルドサック部分の回転広場は幅員10m（一部11m、15.5m）。道路内植栽（コモングリーン）を設け、コモングリーンと専有庭は、一体的に形成</li> <li>• 駐車場は、全戸専有宅地内に設置。宅地面積161㎡～237㎡。住宅面積113㎡～133㎡</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ループ道路から、クルドサック道路に分岐する部分 道路内植栽（コモングリーン）と各戸のアプローチ廻り</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 1747 730 1814"> <p>街区図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路</li> <li>フットパス</li> <li>専有宅地</li> <li>計画のディテール記載範囲</li> <li>計画区域</li> </ul> </div> <div data-bbox="922 1697 1332 1814"> <p>計画のディテール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>化粧舗装</li> <li>アスファルト舗装</li> <li>植栽帯</li> <li>庭・外構</li> <li>ファニチュア</li> <li>高木植栽</li> <li>専有・共有境界</li> </ul> </div> </div> <p>出典：          一般財団法人 住宅生産振興財団 HP 「枚方長尾ニュータウン ガーデンハウスひらかた北山・ふれあいプラザ」  <a href="https://www.machinami.or.jp/pages/machinami_search/search_japanese_detail.php?mid=9075">https://www.machinami.or.jp/pages/machinami_search/search_japanese_detail.php?mid=9075</a>          枚方市 HP 「ガーデンハウスひらかた北山・ふれあいプラザ建築協定書」・「枚方長尾地区地区計画について」  <a href="https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000000/217/11_gardenhouse.pdf">https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000000/217/11_gardenhouse.pdf</a>  <a href="https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000031/31249/1hirakatanagao.pdf">https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000031/31249/1hirakatanagao.pdf</a></p>

## 4. 参考事例

### (3) 歴史を活用したまちづくり

所在地	富山県高岡市、山口県萩市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資源を活用した住民主体によるまちづくりの推進</li> </ul>
<p>主な 取組 内容 等</p>	<p><b>【富山県高岡市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高岡城の城下町や商家町として発展</li> <li>浄土真宗本願寺派の古刹である勝興寺（重要文化財）では、かつては舟運による経済活動を通じて、一種の領主的な役割を果たしていたことから、宗教行事のみならず地域行事も執り行われ、又、その周囲に立ち並ぶ小寺・役寺や町家等により、独自の寺内町が形成</li> <li>歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり計画）を策定（平成23年度）し、「歴史と文化をたのしむまち」を目指し、官民それぞれによる取り組みを実施</li> <li>民間（地域住民）では、機運の高まりによって、地域行事（獅子舞）の復活、「景観づくり住民協定」の締結、住民主体のまちあるきやワークショップを実施</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>旧参道を中心とした道路修景整備を行うため、基本計画作成にあたり地元住民の意見を参考にすべく、まち歩きやワークショップを開催</p> <p><b>【山口県萩市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藩政期から続く町割や歴史的な景観が多く残っているだけでなく、伝統文化や伝統工芸も承継</li> <li>これらの文化遺産を保存、活用、継承していくために、まちじゅうを博物館として捉えた「萩まちじゅう博物館」という取組みを実施</li> <li>「萩まちじゅう博物館」は行政・市民・民間事業者の協働により行われており、「ワンコイントラスト（百円委託）運動」や「萩ものしり博士・子どもものしり博士検定」が実施</li> <li>「ワンコイントラスト（百円委託）運動」は、平成17年度から開催されており、萩に残る大切な未指定の文化遺産を保存、活用、継承するため、市内9ヶ所にトラストボックス（寄付金箱）を設置し、ワンコイン（百円）のトラスト（信託）を求める運動</li> <li>「萩ものしり博士・子どもものしり博士検定」は、平成18年度から開催（萩ものしり博士検定は修士・博士の2段階）。博士課程の合格率は約20%程度。博士課程合格者は、「まちかど解説員」として観光客の案内等を担当</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="text-align: center;">  <p>（修理前）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>（修理後）</p> </div>  </div> <p>萩ものしり博士・子どもものしり博士</p> <p>ワンコイントラストで修理が実現した井上勝邸旧門とトラストボックス</p> <p>出典：          国土交通省資料（都市計画教材）「歴史まちづくり行政」          高岡市 HP <a href="https://www.city.takaoka.toyama.jp/toshi/sangyo/toshi/rekishi/machizukuri/rekishimachidukuri.html">https://www.city.takaoka.toyama.jp/toshi/sangyo/toshi/rekishi/machizukuri/rekishimachidukuri.html</a>          国土技術政策総合研究所 研究資料 <a href="http://www.niim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0723pdf/ks072308.pdf">http://www.niim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0723pdf/ks072308.pdf</a>          総務省資料 <a href="https://www.soumu.go.jp/main/jouhou/rentent/000063243.pdf">https://www.soumu.go.jp/main/jouhou/rentent/000063243.pdf</a></p>

#### 4. 参考事例

--	--

#### (4) 高層建築物の活用

所在地	大阪府高槻市 (JR 高槻駅北東地区)
概要	• 鉄道駅と高層建築物をつなぐ公開デッキによる快適な歩行空間の形成

## 4. 参考事例

主な  
取組  
内容  
等

- 2階レベルを公開デッキでつなぎ、JR高槻駅から関西大学キャンパス方面へ地上へ降りることなく移動が可能
- 高層住宅棟の2階レベルには店舗が並び、にぎわいを形成
- 2階レベルの公開デッキは、地区計画に定める地区施設として位置づけられており、公開デッキ上に広場状空地进行を設けることとされている（広場状空地も地区計画に定める地区施設として位置づけ）



至 JR 高槻駅

施設等概要図



至 JR 高槻駅

JR 高槻駅北東地区地区計画  
計画図（赤色点線部が広場状空地及び公開デッキ部分）

### 【JR 高槻駅北東地区地区計画に定められた内容（一部抜粋）】

<p>公共施設等の整備方針</p>	<p>2 広幅員の歩道や歩道状空地での歩行者空間の確保や、駅と地区をバリアフリーで結ぶデッキ整備により安全快適で回遊性の高い歩行者ネットワークの形成を図る。</p> <p>3 デッキ上に広場状空地进行を設け、賑わいや憩いの場となる“たまり”空間の創出を図る。</p>
<p>地区施設の配置及び規模</p>	<p>公開デッキ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 広場状空地 1 面積約 300 m<sup>2</sup></li> <li>• 広場状空地 2 面積約 250 m<sup>2</sup></li> <li>• 歩行者専用通路 1 幅員 5.0m（有効幅員 4.5m）延長約 510m</li> <li>• 歩行者専用通路 2 幅員 4.5m（有効幅員 4.0m）延長約 260m</li> </ul>

出典：

国交省資料 「大阪府高槻市 JR高槻駅北東地区」

<https://www.mlit.go.jp/crd/index/kuranigi/pdf/H24/066takatsuki.pdf>

高槻市 HP 「JR 高槻駅北東地区に係る都市計画について」

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/74/anjuran-chiku-keikakusyo.pdf>

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/74/hokuto-chiku-keikakuzu.pdf>